

# 学校評価参考資料

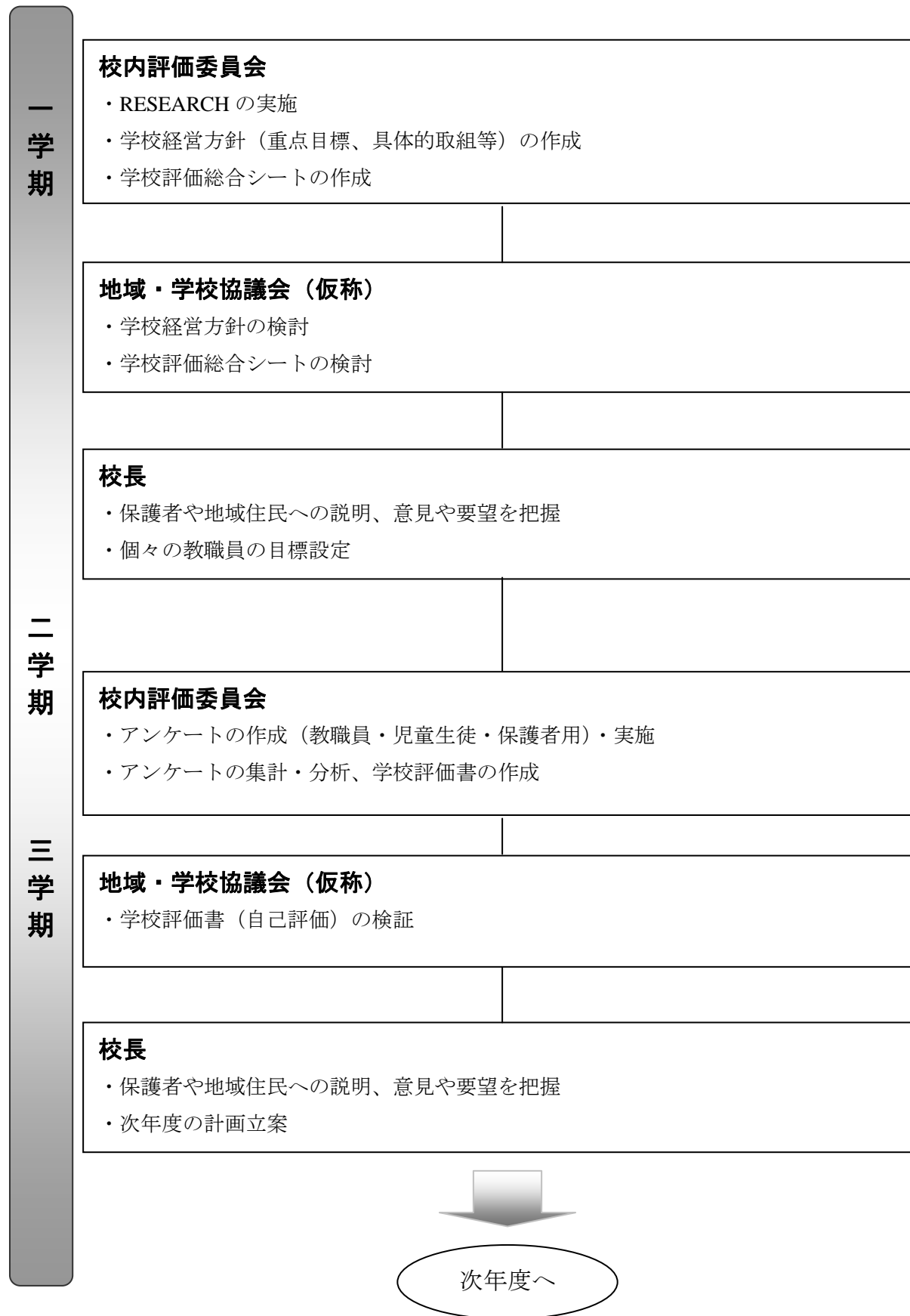
平成19年3月  
福井県教育委員会



## 目 次

1	学校評価の進め方	… p 1
2	学校経営方針	… p 2
3	学校評価総合シート	… p 5
4	アンケート	… p 10
5	学校評価集計表	… p 11
6	学校評価書	… p 12
7	学校評価総合シート事例	
	・小学校①、②	… p 14
	・中学校	… p 35
	・県立学校①、②	… p 43

## 1 学校評価の進め方



## 2 学校経営方針

学校経営方針には、校訓や目指す児童・生徒像、リサーチから明らかになった実態や課題等を踏まえ、次の事項を明記します。

- ・項目 …学校経営や教育活動を推進していくための枠組み
- ・重点目標 …学校の教育目標を実現するための各項目ごとの目標
- ・具体的取組…各重点目標を実現するための実践内容

### (1) 項目の設定

当面の課題や中・長期的な目標を踏まえながら、共通項目と独自項目を設定します。

#### ○共通項目の設定

モデル校の取組みによると、重点化したい項目には、校種ごとの共通性が見られます。こうした項目は、中・長期的なビジョンをもって取り組む必要があります。

##### <共通目の例>

小学校の場合

知、徳、体（3項目）

中学校の場合

「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保護者・地域住民との連携」（3項目）

県立学校の場合

「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「進路指導」（3項目）

#### ○独自項目の設定

特に、当面の課題や学校の特色となるような項目については、学校ごとに独自に設定します。

##### <独自項目の例>

「安全管理」、「保健管理」、「特別支援教育」、「研修」、「施設・整備」、…など

## (2) 重点目標と具体的な取組みの設定

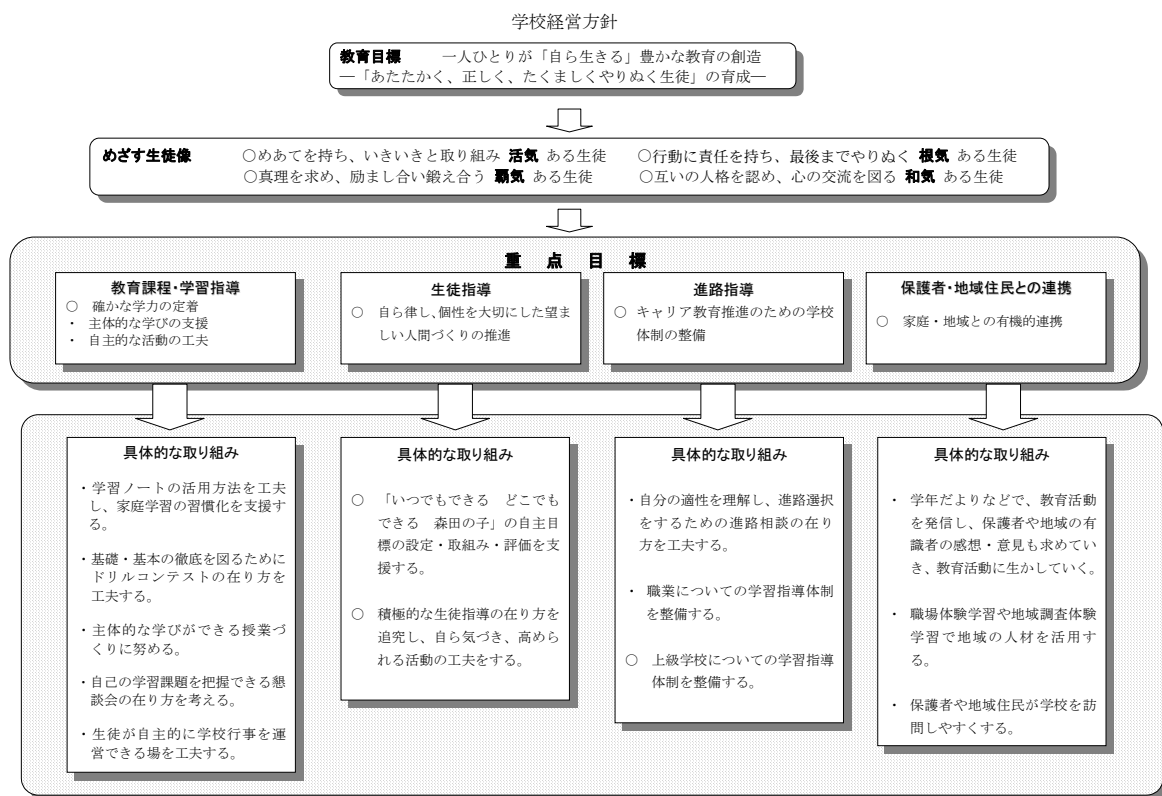
RESEARCH（現状分析と把握）や学校教育目標、前年度の評価結果から得た成果と課題等を基に、今年度、学校が特に力を入れて取り組もうとする「重点目標」を各項目ごとに設定します。

次に、重点目標の実現のために、学校がどのような教育活動その他学校経営に取り組むかという「具体的な取組み」を設定します。

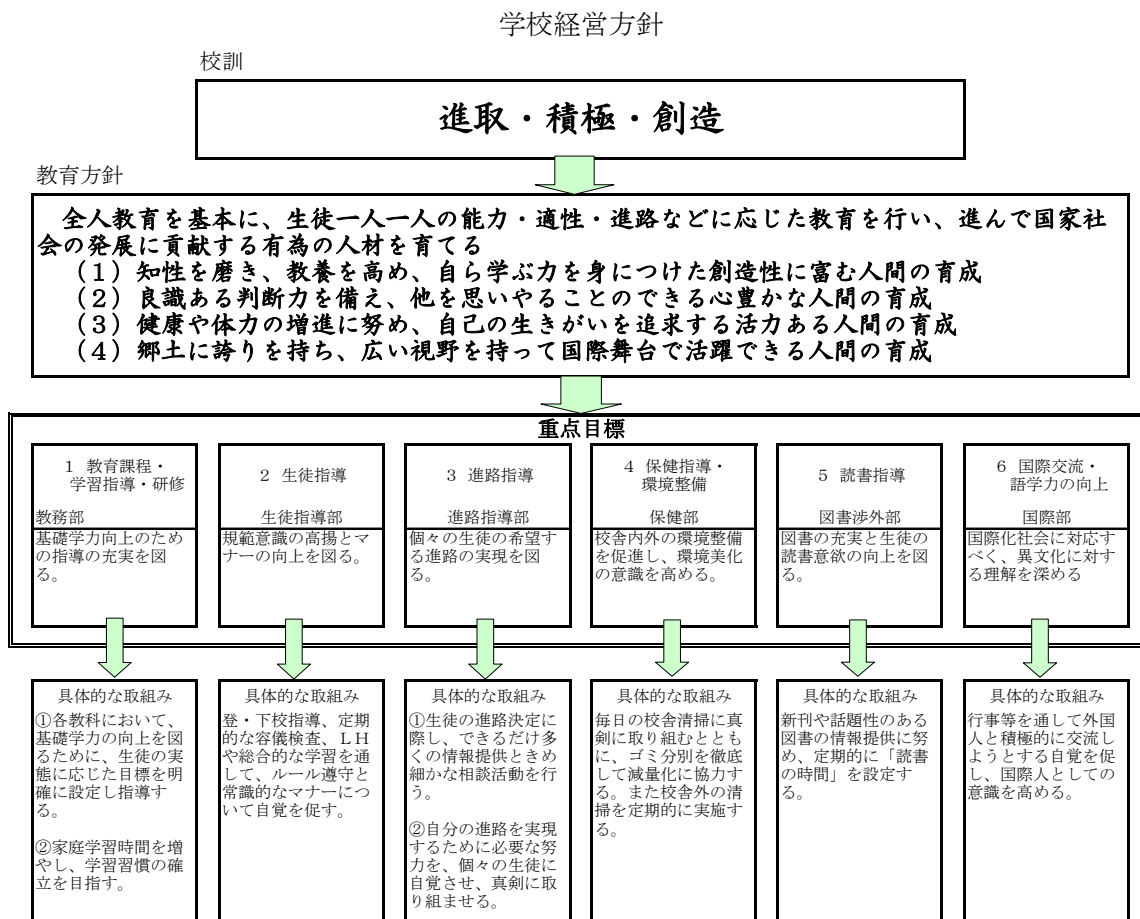
### <学校経営方針小学校の例>



## <中学校の例>



## <県立学校の例>



### 3 学校評価総合シート

学校評価総合シートは、学校経営方針に示された項目、重点目標および具体的取組に基づき、次の内容で作成します。

- ・ 評価の観点…目標の実現状況を客観的に判断するよりどころ
- ・ 目標指数 …各指標の目標となる数値
- ・ 判断基準 …評価の観点から目標の実現状況がどの程度であるかを個人が判断する基準
- ・ 判定基準 …アンケートの集計結果から取組みや達成度を分析する基準となるもの
- ・ 回答者 …アンケートの実施対象者

#### <学校評価総合シート小学校の例>

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準												
確かな学力	基礎学力の定着を図る。	授業研究を積極的に行い、よくわかる授業の創造に努める。	各教科等において、重点単元（教材）をきめて教材研究を行っている。（取組指標）	重点単元（教材）をきめて教材研究した教科は、 A 4教科以上ある。 B 2～3教科ある。 C 1教科ある。 D ない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、研修体制等を再検討する。												
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	私は、日ごろの学習内容が A ほとんど理解できる。 B だいたい理解できる。 C 半分くらいは理解できる。 D あまり理解できていない。		回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、指導の在り方を再検討する。											
			児童は、「授業がわかる」と感じている。（成果指標）				あなたのお子さんは、日々の学習内容を A ほとんど理解している。 B おおむね理解している。 C 半分くらい理解している。 D あまり理解していない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、指導の在り方を再検討し家庭との連携を強化する。									
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上						漢字・計算ドリルや小プリントを活用し、漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。（取組指標）	漢字や計算の練習を、 A 毎日実施し、ノートの点検を行っている。 B ほぼ毎日実施し、ノートの点検を行っている。 C 毎日実施しているが、ノートの点検は十分ではない。 D あまり実施していない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制等を再検討する。						
			児童は、日々の学習内容を理解している。（満足度指標）									漢字・計算テストで目標点数に到達している。（成果指標）	漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は取組体制や指導方法を再検討する。			
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上												私は、漢字・計算テストのための勉強を A 毎日取り組んだ。 B ほぼ毎日取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、作成方法等を再検討する。	
		漢字・計算ドリルや小プリントを活用し、漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。（取組指標）	漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。		漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。												回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は取組体制や指導方法を再検討する。
		【目標指数】 A+Bの合計が80%以上		児童は、漢字・計算テストに熱心に取り組んでいる。（満足度指標）		私は、漢字・計算テストのための勉強を A 毎日取り組んだ。 B ほぼ毎日取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。											
		漢字・計算テストで目標点数に到達している。（成果指標）					漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。	漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。									
		【目標指数】 A+Bの合計が70%以上							児童は、漢字・計算テストに熱心に取り組んでいる。（満足度指標）	私は、漢字・計算テストのための勉強を A 毎日取り組んだ。 B ほぼ毎日取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、作成方法等を再検討する。						
		漢字・計算ドリルや小プリントを活用し、漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。（取組指標）										漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。	漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は取組体制や指導方法を再検討する。			
		【目標指数】 A+Bの合計が80%以上													児童は、漢字・計算テストに熱心に取り組んでいる。（満足度指標）	私は、漢字・計算テストのための勉強を A 毎日取り組んだ。 B ほぼ毎日取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。	



<中学校の例>

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	
学習指導	確かな学力の定着	①学習ノートを活用し、家庭学習の習慣を支援する	学習ノートの提出状況と内容の点検を実施する。(取組指標)	学習ノートを A ほぼ毎回数検している B 2回に1回ほど点検した C 3回に1回ほど点検した D 点検していない	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、実施方法等を再検討する	教職員	
			【目標指数】 A+Bが80%以上	私は、学習ノートを A ほぼ毎日提出した B 2回に1回ほど提出した C 3回に1回ほど提出した D ほとんど出さなかった	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、実施方法等を再検討する	生徒	
			学習ノートを期日に提出する。(成果指標)	あなたのお子様は、家庭学習に取り組む際に A ほぼ毎日学習ノートを活用した B 4日以上は学習ノートを活用した C あまり学習ノートを活用しなかった D ほとんど学習ノートを活用しなかった	AまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、家庭との連携強化につながる方策を検討する。	保護者	
			【目標指数】 A+Bが80%以上	定期テスト前に A 基礎・基本が身につくようドリルを工夫している B 時々ドリルを実施している C 計画的にドリルを実施していない D ドリルを一度も実施していない	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は取組み体制を再検討する	教職員	
			生徒は、学習ノートを活用し家庭学習に取り組んでいる。(満足度指標)	私は、ドリルコンテンツで A しっかり基礎・基本が身についた B かなり基礎・基本が身についた C 少し基礎・基本が身についた D 基礎基本が身につかなかった	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は取組み体制を再検討する	生徒	
			【目標指数】 A+Bが70%以上	あなたは、お子様のドリルコンテンツへの A 取組みに満足しており効果的だと思う B 取組みは概ね満足しており学習の定着につながると思う C 取組みにあまり満足しておらず定着にあまりつながらないと思う D 取組みは不十分であり、効果がないと思う E わからない	回答者のAまたはBの判断した割合が70%未満の場合は、家庭との連携強化につながる方策を検討する	保護者	
	②基礎・基本の徹底を図るためにドリルコンテンツのあり方を工夫する	計画的にドリルコンテンツを実施する(取組指標)	ドリルコンテンツを通して基礎・基本が身についた(成果指標)	【目標指数】 A+Bが80%以上	【目標指数】 A+Bが70%以上	【目標指数】 A+Bが70%以上	
		ドリルコンテンツの取り組みは基礎基本の定着に効果的である(満足度指標)	【目標指数】 A+Bが70%以上				

<県立学校の例>

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者		
1 教育課程 学習指導 研修	学力向上のために、生徒の学習習慣の確立を図る。	生徒の生活・学習実態調査を実施する。教科学習法の定期的指導と学習用課題の充実をほかり、家庭や始業前後の自主的学習時間の確保に向けた指導を行う。	一週間ごとに毎日のタイムスケジュールを立て、その中で家庭学習や自主的学習の時間を明確に位置付ける。(取組指標)	家庭学習や自主的学習の時間を確保し、学習に取り組ませたか。 A 十分時間を確保し学習させた。 B おおむね時間をとれ学習させた。 C あまり学習させられなかった。 D ほとんど学習させられなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、指導方法等を再検討する。	教職員		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	計画的に家庭学習の課題を A 計画通りに課題を提供できた。 B おおむね計画どおりに課題を提供できた。 C あまり計画どおりに課題を提供できなかった。 D まったく課題を提出できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組方法等を再検討する。	教員		
			授業の進度にあった適切な内容および学習量の課題を計画的に提供する。(取組指標)	家庭学習や自主的学習時間が確保されている。(成果指標)	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	
			家庭学習や自主的学習時間が確保されている。(成果指標)	家庭学習や自主的学習時間が(平日) A 3時間以上である。 B 2～3時間である。 C 1～2時間である。 D 1時間未満である。	AまたはBと回答した割合が80%未満の場合は、指導方法等を再検討する。	教職員		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	子供は、家庭学習を A ほぼ毎日、やっていた。 B 2日に1回程度やっていた。 C 週に2日程度やっていた。 D ほとんどやっていた。	Aと回答した割合が80%未満の場合は、指導方法等を再検討する。	保護者		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	理解しやすい授業を目指し工夫している教員が A ほとんどである。 B 半数程度である。 C 少しはいる。 D あまりいない。	Aと回答した割合が90%未満の場合は、取組方法等を再検討する。	教職員		
	教員の授業力を高める。	教員相互および生徒による授業評価を定期的に行う。	各教科で公開授業や教科研究会を実施し、理解しやすい授業を実施する。(取組指標)	授業評価を、 A 学期ごと実施した。 B 2回は実施した。 C 1回実施した。 D まったくできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組方法等を再検討する。	教職員		
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	授業の内容を理解している。(満足度指標)	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上		
			授業内容を理解している。(満足度指標)	授業の理解について、 A 授業内容はよく理解できた。 B 授業内容はおおむね理解できた。 C 授業内容はあまり理解できなかった。 D 授業内容は理解できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、指導方法等を再検討する。	生徒		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上					

## ①評価の観点

具体的な取組みを評価するための観点は、求められる指標が偏らないように設定します。

## ②判断基準

取組指標、成果指標、満足度指標を求めるため、それぞれの観点に基づき、判断基準を設定します。

判断基準は、保護者、児童・生徒、教職員等へのアンケートに使用します。

### <評価の観点と判断基準の例>

具体的な取組み…あいさつ運動を実施する。

#### ○取組指標を求めるための評価の観点

「時と場に応じたあいさつの指導をしている」

(判断基準) 私は、あいさつの指導を

A：毎日継続的に行った。

B：週に数回行った。

C：月に数回行った。

D：学期に数回行った。

(アンケート回答者) 教職員

#### ○成果指標を求めるための評価の観点

「進んであいさつをしている」

(判断基準) 私は、

A：あいさつを毎日進んでした。

B：あいさつをだいたい毎日した。

C：自分からは進んであいさつしなかった。

D：ほとんどあいさつしなかった。

(アンケート回答者) 児童

#### ○満足度指標を求めるための評価の観点

「気持ちよくあいさつができています」

(判断基準) 私の子どもは、

A：進んであいさつをしている。

B：おおむね進んであいさつをしている。

C：まわりからのあいさつには応えている。

D：あいさつが不十分である。

(アンケート回答者) 保護者

### ③定量的判断基準と定性的判断基準

定量的判断基準は、実現した回数や点数、人数などの数値で表します。

#### <取組指標を求める定量的判断基準の例>

評価の観点「校下巡視を通して子どもの安全を見守る」

(判断基準) 安全を見守る校下巡視を

A：年10回以上行った。

B：年7回程度行った。

C：年5回程度行った。

D：1回も行っていない。

(アンケート回答者) 教職員

定性的判断基準は、判断する人に分かりやすいよう、できるだけ具体的な子どもの姿や文章化された表記で設定することが有効です。

#### <満足度指標を求める定性的判断基準の改善例>

評価の観点「子どもは読書に興味をもっている」

(判断基準) 私の子どもは、読書に



A：とても興味をもっている。

B：まあまあ興味をもっている。

C：あまり興味をもっていない。

D：全く興味をもっていない。

#### ※具体的な姿で設定する

(判断基準) 私の子どもは、

A：よく本を読み、家族と本について話をする。

B：よく本を読んでいる。

C：ときどき本を読んでいる。

D：あまり本を読んでいない。

(アンケート回答者) 保護者

#### ④判定基準と目標指数

保護者、地域住民、児童・生徒、教職員等へのアンケート結果を自己評価に生かしていくためには、評価の観点ごとに目安となる数値（判定基準）があると、具体的な取組みの実現状況に対する診断・分析に役立ちます。

この判定基準を評価の観点ごとの目標指数として掲げることで、具体的な取組みの目指すところが明確になります。

目標指数や判定基準で示されている割合等の数字は、RESEARCH（現状分析と把握）に基づき設定します。

##### <判定基準と目標指数の例>

（評価の観点）「子どもは読書に興味をもっている」

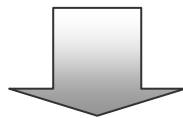
（判断基準）私の子どもは、

A：よく本を読み、家族と本について話をする。

B：よく本を読んでいる。

C：ときどき本を読んでいる。

D：あまり本を読んでいない。



（判定基準）回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制および指導方法を再検討する。

（目標指数）A+Bの合計が70%以上を目指します。

## 4 アンケート

アンケートの作成に当たっては、学校評価総合シートの判断基準をそのまま活用します。

アンケートは、自己評価に必要な情報収集の一環として行われ、保護者、児童・生徒、教職員等に対して実施します。

アンケートの様式については、各学校で工夫するとともに、学校への思いや願いが記入できる自由記述の欄を設けることも大切です。

### <アンケート作成の例>

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・指数目標	判断基準	判定基準	回答者
確かな学力	基礎・基本の学習について習熟の徹底を図る。	望ましい家庭学習の習慣化を図る工夫をする。	子どもは家庭学習や宿題に取り組んでいる。(満足度指標)	私の子どもは家庭学習や宿題を A 毎日やっている。 B ほとんど毎日やっている。 C 2～3日に1回ぐらいの割合でやっている D ほとんどやっていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、家庭との連携強化につながる方策を検討する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			



#### (例) 学校評価アンケート (保護者用)

- 私の子どもは家庭学習や宿題を、
  - 毎日やっている。
  - ほとんど毎日やっている。
  - 2～3日に1回ぐらいの割合でやっている。
  - ほとんどやっていない。
- 私の子どもは地域の学習や交流学习を
  - とても楽しいと言っている。
  - まあまあ楽しいと言っている。
  - あまり楽しくないと言っている。
  - 楽しくないと言っている。
- 私の子どもは、相談できる先生が
  - 2人以上はいる。
  - 1人はいる。
  - いない。

ありがとうございました。お気づきのことがございましたら、お書きください。

## 5 学校評価集計表

学校評価総合シートにアンケートの集計結果を記入して、学校評価集計表を作成します。

作成の手順

- ①アンケート結果の欄には、各判断基準ごとに人数と割合を集計・計算し、記入します。
- ②判定結果の欄には、目標指数に照らし合わせて、その結果を記入します。

### <学校評価集計表の例>

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果	
					人数	割合		
豊かな心	ともに学ぼうとする全校集団作り	年間を通じて、学校行事を出来るだけ子供達に任せ、自分たちで作上げたという成就感を持たせる。	年間の学校行事を洗い出し、児童に任せるものと任せられないものを区別し、年度当初から取り組ませる。 【取組指標】 A+Bの合計が80%以上	年間の学校行事の中から	計	11人	A+Bが72%	
				A 70%以上を子供に任せていた。	A	3人		27%
				B 50%以上を子供に任せていた。	B	5人		45%
				C 40%以上を子供に任せていた。	C	3人		27%
				D 子供に任せたのが40%未満であった。	D	0人		0%
				学校行事の内容を	計	11人	A+Bが54%	
				A 90%以上を子供に任せていた。	A	2人		18%
				B 80%以上を子供に任せていた。	B	4人		36%
				C 50%以上を子供に任せていた。	C	5人		45%
				D 子供に任せる学校行事の内容が40%未満であった。	D	0人		0%
	学校行事を自分たちの力でという意識のもと、僅かな時間も利用し活動している。(成果指標)	【目標指標】 A+Bの合計が80%以上	私は、学校行事のため	計	145人	A+Bが52%		
			A ほとんどの休み時間に取り組みをしていた。	A	34人		23%	
			B 出来る限り休み時間に取り組みをしていた。	B	42人		29%	
			C 時々、休み時間に取り組みをしていた。	C	38人		26%	
	D あまり活動をしたことがなかった。	D	31人	21%				
	学校行事で培った力で、学級での活動が活発になってきた。(成果指標)	【目標指標】 A+Bの合計が80%以上	学級での活動が	計	6人	A+Bが83%		
			A 大変活発になってきた。	A	3人		50%	
			B 徐々に活発になってきた。	B	2人		33%	
			C 時々活発な時もある。	C	1人		17%	
	D 今までと変わらなかった。	D	0人	0%				
学校行事で、子供達の活躍している姿を見るのが楽しみであるという声が多くなっている。(満足度指標)	【目標指標】 A+Bの合計が90%以上	子供達の自主的な取り組みで、行事が大変活発になってきたことが	計	98人	A+Bが98%			
		A よくあてはまる。	A	75人		77%		
		B ややあてはまる。	B	21人		21%		
		C あまりあてはまらない。	C	2人		2%		
D あてはまらない。	D	0人	0%					
自分の考えが相手に分かりやすく伝えられるように、発表の場を多く設定する。	【目標指標】 A+Bの合計が80%以上	一人一人の考えを大切にすることを	計	9人	A+Bが100%			
		A ほとんどの授業や行事で取り入れた。	A	6人		67%		
		B 授業や行事で取り入れることが多かった。	B	3人		33%		
		C 授業や行事で取り入れることは僅かであった。	C	0人		0%		
D 授業や行事で取り入れることはほとんどなかった。	D	0人	0%					
自分の意見を発表したり、文章で書いておくことを取り入れた授業を工夫している。(取組指標)	【目標指標】 A+Bの合計が80%以上	自分の意見を発表したり、文章で書いておく授業を	計	6人	A+Bが100%			
		A 毎日行った。	A	4人		67%		
		B ほぼ毎日行った。	B	2人		33%		
		C あまり行わなかった。	C	0人		0%		
D ほとんど行わなかった。	D	0人	0%					
自分の考えを発表できるようになってきた。(成果指標)	【目標指標】 A+Bの合計が80%以上	私は、自分の考えを	計	145人	A+Bが67%			
		A いつも発表することが出来た。	A	45人		31%		
		B たしついで発表することが出来た。	B	52人		36%		
		C 時々発表することが出来た。	C	35人		24%		
D ほとんど発表する事ができなかった。	D	13人	9%					
いろいろな発表の場を設けることは、発表の自信をつけさせるのに効果的である。(満足度指標)	【目標指標】 A+Bの合計が90%以上	いろいろな発表の場を設ける取り組みに	計	98人	A+Bが98%			
		A 大変満足しており、効果的であった。	A	78人		80%		
		B 概ね満足しており、効果的であった。	B	18人		18%		
		C 満足しておらず、効果的とはいえなかった。	C	2人		2%		
D 十分とは思えず、効果が低い。	D	0人	0%					

## 6 学校評価書

判定結果を分析するに当たっては、3つの指標からとらえることの良さを最大限に生かします。

取組指標、成果指標、満足度指標の3つの指標から得られた判定結果を総合的に分析し、成果と課題として、できるだけ簡潔かつ明瞭に記述します。

判定結果どうしや目標指数とのズレがある場合は、その要因を考察することで成果と課題が明らかになり、改善・向上策を検討する手がかりとなります。

### <学校評価書小学校の例①>

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
確かな学力	基礎基本の徹底、確かな学力の定着に努める。	教師は、基礎基本の徹底に、意図的、計画的に取り組むことができた。また、83%の児童がテストで80点以上をとっている。しかし、子どもが自主的に家庭学習に取り組んでいると満足している保護者は、50%以下である。	児童の知的好奇心を高めるための方法を考え、家庭学習や自主学習に意欲的に取り組むように工夫していく。
	考える場、表現する場を多く設定する。	言語環境部会を組織し、考える場や表現する場を計画的に多く設定した。準備、練習したことはしっかり発表できるが、授業をはじめあらゆる場所で自分の考えをはっきり言うことができる児童は、60%程度にとどまった。	人の意見をしっかり聞き取る力や論理的思考力を育てる方法を工夫し、自分に自信を持たせるようにする。
	学び方、調べ方、まとめ方、表現の仕方、問題解決の方法などを自分ができるようになったと実感できる授業作りを務める。	A+B判定の平均が87%を超えており、ほぼ達成と言えるが、児童の14%が「授業はまあまあ分かるがあまり楽しいとは思わない。」と答えている。	更に、学習の喜びを実感できる授業づくりをめざしていく。

### <小学校の例②>

(2) 授業研究を積極的に行い、よくわかる授業の創造に努める。

<教師> 各教科等において、重点単元をきめて教材研究を行っている。

目標指数 (A+B) : 70%  
判定割合 92.3%

<児童> 日ごろの学習内容が理解できる。

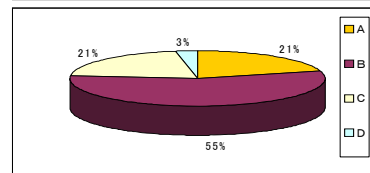
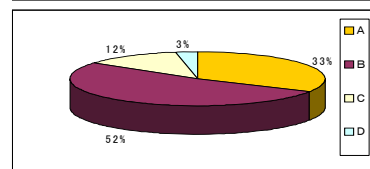
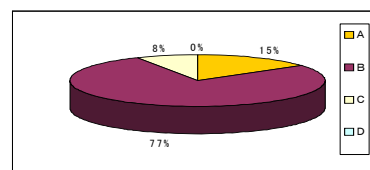
目標指数 (A+B) : 80%  
判定割合 84.9%

<保護者> 児童は、日々の学習内容を理解している。

目標指数 (A+B) : 70%  
判定割合 76.6%

☆よくわかる授業の基本は教材研究の充実である。教師は日ごろから努力をしているが、まだ十分とはいえないので、自主的な授業研究の実施などを通して、更に指導技術の向上に努めていきたい。

C、D評価の児童の指導については、T・Tの充実や家庭学習の定着など、個々の児童に応じた方法を講じていく必要がある。



< 中学校の例 >

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導 研修	学力調査に基づく授業の改善	【取組指標】は、目標を20%下回った。全校体制での授業研究になかなかまとまった時間が取れなかったこと、教科によって1人しか配置されていない教員は授業改善に適切な助言を得にくいことが原因と考えられる。 生徒による【満足度指標】は、目標を6.2%下回った。教員の研修を積み上げ、授業を充実させる必要性がある。	多忙を極める教員の勤務状況であるが授業は基本であるとの認識に立ち、授業研究を最優先にする体制を取る。 また、授業の根幹は各教科に共通するものであるという認識を研修で深め、他教科に学ぶという意識を徹底させる。 更に、市教研や教科指導員等の制度の活用を図り、授業の改善を進めていく。
	個人進度に応じた個別指導の推進	教職員は、自らの取組みに辛い評価を下しているが、成果としては、やや目標を下回ったものの、半数近い生徒が苦手教科の克服が進んでいると答えた。保護者は、本校の学習指導の状況に肯定的な評価を与え、目標を大きく上回っている。 全般的には、本校の学習指導は良好な状況で進められていると考えられる。しかし、個別指導は、学年ごとに進めるのがせいぜいで、全校体制が取れていない。	行事の準備や日常の生徒指導等は学年が中心となって行われているが、個々の教員にとっては、複数学年のクラスで授業を行うわけであるから、全校体制による個別指導が望ましい。敦賀市で、来年度から実施される2学期制は、個別指導の体制構築が主眼のひとつとなっており、学期の半ばに存する長期休業の有効利用をポイントとして、ふだんから指導と評価の一体化を図っていく。

< 県立学校の例 >

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	①年間学習計画を作成する。	ほぼすべての科目(97.5%)で、年間学習指導計画を十分検討し作成することができた。 それに対して、計画どおり授業ができた割合は、7.5ポイント低い。	年間学習指導計画は、引き続き毎年検討をし作成する。年間学習指導計画に従い、授業を進められなかった科目については、原因を調べ再計画する。また、授業展開の工夫をする。
	②授業研究週間を設定する。研究授業や授業研修会を実施する。	授業研究週間の取組みは、計画し実施できた。参加者は概ね積極的に参加できた。 生徒達の中で、授業があまり理解出来ていないと感じている割合が34.3%いる。	日々の教材研究は時間的ゆとりを持って行う。授業の研修会や研究授業には学校行事として位置付けを明確にし、すべての先生が参加できる環境を作る。 授業の進捗が遅れることなく、生徒達の理解が深まるよう授業を工夫する。
2 生徒指導	①身だしなみや挨拶の指導を徹底する。	保護者の前での身なりやあいさつが、教員を前にしたときよりも評価が低い。今後、常日ごろの身なりやあいさつの重要性を知らせたい。	来年度も継続して、目標に取り組む。常日ごろの身なりやあいさつの重要性を集会等で知らせる。学校外での身なりやあいさつの指導を行う。評価が低い生徒への個別指導を徹底する。
	②遅刻等の指導を徹底し、規律ある生活をさせる。	ほんの一部であるが評価が低い。保護者が思っている以上に、生徒が遅刻をしている。	来年度も継続して、目標に取り組む。C、Dと評価をしている数を減らすために、生活実態を知り、保護者に協力を求めて、改善を促す。



## 7 学校評価総合シート事例

- ・ 小学校①、②
- ・ 中学校
- ・ 県立学校①、②



学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者		
確かな学力	基礎学力の定着を図る。	望ましい学習習慣の定着を図る。	学年に応じた学習ルールを作成している。(取組指標)	学習ルールについて、 A 児童の実態や系統性を考慮し、児童の意見も取り入れながら作成した。 B 児童の実態や系統性を考慮して作成した。 C 児童の実態を考慮して作成した。 D これまでの学習ルールを参考に作成した。	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、実施方法や研修体制を再検討する。	教職員		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	家庭学習の課題や宿題を、 A さちんと計画的に提供できた。 B おおむね計画的に提供できた。 C あまり計画的には提供できなかった。 D ほとんど計画的には提供はできなかった。	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、取組方法を再検討する。		教職員	
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	私は、学習ルールについて、 A とてもよく守れた。 B だいたい守れた。 C あまり守れなかった。 D ほとんど守れなかった。	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、指導方法を再検討する。			児童
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	私は、課題や宿題を提出日までに、提出している。(成果指標)	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、指導方法を再検討し、家庭との連携を強化する。			
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	あなたは、お子さんは、 A 毎日、家庭学習に取り組んでいる。 B ほば毎日、家庭学習に取り組んでいる。 C あまり家庭学習に取り組んでいない。 D ほとんど家庭学習に取り組んでいない。	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、家庭との連携を強化する。	保護者		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上					

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
	基礎学力の定着を図る。	授業研究を積極的に行い、よくわかる授業の創造に努める。	各教科等において、重点単元（教材）をきめて教材研究を行っている。（取組指標）  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 児童は、「授業がわかる」と感じている。（成果指標）  【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 児童は、日々の学習内容を理解している。（満足度指標）  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 漢字・計算ドリルや小プリントを活用し、漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。（取組指標）  【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 漢字・計算テストで目標点数に到達している。（成果指標）  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 児童は、漢字・計算テストに熱心に取り組んでいる。（満足度指標）  【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	重点単元（教材）をきめて教材研究した教科は、 A 4教科以上ある。 B 2～3教科ある。 C 1教科ある。 D ない。  私は、日ごろの学習内容が A ほとんど理解できる。 B だいたい理解できる。 C 半分くらいは理解できる。 D あまり理解できていない。  あなたのお子さんは、日々の学習内容を A ほとんど理解している。 B おおむね理解している。 C 半分くらい理解している。 D あまり理解していない。  漢字や計算の練習を、 A 毎日実施し、ノートの点検を行っている。 B ほぼ毎日実施し、ノートの点検を行っている。 C 毎日実施しているが、ノートの点検は十分ではない。 D あまり実施していない。  漢字・計算テストにおいて A 2つのテストの平均点が95点以上である。 B 2つのテストの平均点が90点以上である。 C 2つのテストの平均点が80点以上である。 D 2つのテストの平均点が80点未満である。  私は、漢字・計算テストのための勉強を A 毎日取り組んだ。 B ほぼ毎日取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、研修体制等を再検討する。  回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、指導の在り方を再検討する。  回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、指導の在り方を再検討し家庭との連携を強化する。  回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制等を再検討する。  回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、作成方法等を再検討する。	教職員  児童  保護者  教職員  教職員  児童

確かな学力

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者		
確かな学力	基礎学力の定着を図る。	読書活動の充実を図る。	「朝の読書」の充実を図っている。 (取組指標)	「朝の読書」では、 A 多様なジャンルの本を児童に紹介するなど、時間いっぱい意欲的に取り組んでいる。 B 時間には教室に行き、児童とともに読書している。 C 児童が本の選択に時間をとるなど、読書の時間が十分確保できていない。 D 教室に行くのが遅れるなど、十分な指導ができていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員		
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	図書室には、児童に読ませたい本が十分に揃っている。 A おおむね揃っている。 B おおむね揃っていない。 C あまり揃っていない。 D ほとんどない。	回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、環境整備の在り方等を再検討する。		教職員	
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上	私は、 A 週に3回程度、図書室で本を読んでいる。 B 週に2回程度、図書室で本を読んでいる。 C 週に1回程度、図書室で本を読んでいる。 D 図書室にはほとんど行かない。	回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、指導方法や内容等を検討する。			児童
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上	あなたのお子さんは、家庭で A 読書をする習慣がついている。 B しばしば本を読んでいる。 C あまり本を読まない。 D ほとんど本を読まない。	回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、家庭への啓発活動等を検討する。			

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
豊かな心	<p>自他の人権を尊重する心や態度を育てる。</p> <p>総合的な学習の時間において、人権をテーマにした学習を行う。</p> <p>具体的な学習の時間において、人権をテーマにした学習を行う。</p> <p>お互いの思いを伝え合う場面を多く設定する。</p>	<p>地域の人と交流する学習に積極的に取り組んでいる。(取組指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が60%以上</p> <p>児童は、関心を持ったボランティア活動に関わっている。(成果指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が50%以上</p> <p>学校は、人権を尊重する心や態度を育てようとしている。(満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>総合的な学習の時間では、</p> <p>A 学期に1回以上は地域に出かけ、地域の人と積極的に交流している。</p> <p>B 学期に1回以上は地域の人に学校にきてもらい、交流活動を行っている。</p> <p>C できるだけ地域の人と交流するよう心がけている。</p> <p>D 交流学習はほとんどしていない。</p> <p>私は、これまでボランティア活動に</p> <p>A 2回以上参加している。</p> <p>B 1回参加したが、まだ参加したことはない。</p> <p>C 参加したが、興味や関心がない。</p> <p>D 興味や関心がない。</p> <p>学校の、人権を尊重する心や態度を育てるための取組や指導について</p> <p>A 十分満足している。</p> <p>B おおむね満足している。</p> <p>C やや満足している。</p> <p>D 満足していない。</p> <p>発表集会活動は、</p> <p>A 計画通りに実施し、活動内容の見直し等も適宜行っている。</p> <p>B 計画通りに実施している。</p> <p>C あまり計画通りには実施できていない。</p> <p>D ほとんど計画通りには実施できていない。</p> <p>トークの日には、</p> <p>A 毎月必ずトークを実施し、仲間づくりに生かしている。</p> <p>B 毎月必ずトークを実施し、話し合い活動を行っている。</p> <p>C おおむねトークを実施し、日ごろの生活を振り返らせている。</p> <p>D 回数、内容ともトークを十分に実施できていない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、取組体制等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が50%未満の場合は、取組内容を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組内容の再検討と家庭への連絡等を強化する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、取組体制等を再検討する。</p>	<p>教職員</p> <p>児童</p> <p>保護者</p> <p>教職員</p> <p>教職員</p>	
		<p>【目標指数】 A+Bの合計が60%以上</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が60%以上</p>				

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
豊かな心	<p>他人の人権を尊重する心や態度を育てる。</p>	<p>お互いの思いを伝え合う場面を多く設定する。</p>	<p>児童は、様々な活動の中で、自分の思いを伝えることができる。(成果指標)</p>	<p>私は、学級や集会活動において A だいたい自分の思いや感想を友達と伝え合うことができている。 B ときは自分の思いや感想を友達に伝えることができている。 C 自分の思いや感想を友達に伝えることがあまりできない。 D 自分の思いや感想をほとんど言うことができない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、指導方法や取組内容等を再検討する。</p>	児童
			<p>(目標指標) A+Bの合計が70%以上</p> <p>児童は、集会活動等の活動を楽しみにしている。(満足度指標)</p>	<p>私は、集会活動の時間を A とても楽しみにしている。 B 楽しみにしている。 C あまり楽しみにしていない。 D まったく楽しみにしていない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、指導方法等を再検討し、家庭への連絡を強化する。</p>	児童
豊かな心	<p>研修会や事例を通して、教職員の人権意識の高揚に努める。</p>	<p>研修会や事例を通して、教職員自身自身が様々な課題を自分自身のもものとして受け止め、適切に対応できる力の育成を図っている。(取組指標)</p>	<p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>研修会では、 A 課題の本質をしっかりと理解し、積極的に発言したり、手立てを考えたりしている。 B 課題の本質をつかきと理解し、自分の考えを持っている。 C 課題の本質を十分に理解できないうきがあり、そのときは自分の意見に自信が持てない。 D 周りの意見を参考にしながら学んでいる段階でほとんど聞いていないことが多い。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制や内容等を再検討する。</p>	教職員
			<p>(目標指標) A+Bの合計が70%以上</p> <p>気がかりな児童に対して、全職員が共通理解を持ち対応している。(成果指標)</p>	<p>気がかりな児童に対して、 A 全職員が共通理解し、迅速かつ適切な対応ができている。 B 全職員が共通理解し、適切な対応を考えている。 C 全職員が共通理解はしているが、一部の職員だけが対応している。 D 共通理解ができておらず、対応も不十分である。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組方法や研修の在り方等について再検討する。</p>	教職員
<p>(目標指標) A+Bの合計が80%以上</p>						

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
豊かな心	自他の人権を尊重する心や態度を育てる。	研究会や事例を通して、教職員の人権意識の高揚に努める。	評価の観点・目標指数 教職員は、児童の悩みや意見を受け止め、しっかりと対応している。 (満足度指標)	先生は、 A 私のことを十分理解していてくれて、私の困っていることもしっかりと受け止め、解決してくれている。 B 私のことを一応理解していてくれて、私の困っていることはきちんと対応してくれる。 C 私のことをあまり理解してくれず、私の困っていることにもきちんと対応してくれない。 D 私のことを理解してくれていない。	回答者のAまたはBと判断した場合が70%未満の場合は、実施方法や研修の在り方等について再検討する。	児童
			(目標指標) A+Bの合計が70%以上 教職員は、児童を十分理解し、児童も教職員を信頼している。(満足度指標)	先生は、 A 子どもを十分理解してくれており、子どもも先生のことをとても信頼している。 B 子どもを一応理解してくれており、子どもも先生のことを信頼している。 C 子どもをあまり理解しておらず、子どもも先生のことをあまりよく思っていない。 D 子どもを十分理解してくれていない。	回答者のAまたはBと判断した場合が70%未満の場合は、家庭との連携等を強化する。	保護者



学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
健康・安全教育の充実を図る。	健康・安全教育の充実を図る。	家庭と連携し、規則正しい生活リズムの確立に努める。	<p>(取組指標)</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を行っている。</p>	<p>「早寝・早起き・朝ごはん」についての児童に対する指導や保護者への啓発活動を、</p> <p>A あらゆる機会を通して、意図的・計画的に行っている。</p> <p>B 学級の時間や通信等を通して、意図的・計画的に行っている。</p> <p>C 学級の時間や通信等を通して、2～3回行った。</p> <p>D ほとんど行っていない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制等を再検討する。</p>	教職員
			<p>【目標指数】</p> <p>A+Bの合計が70%以上</p>	<p>私は、</p> <p>A 睡眠時間は8時間以上とり、朝ごはんも毎日しっかりと食べている。</p> <p>B 睡眠時間は8時間以上とり、朝ごはんもほぼ毎日食べている。</p> <p>C 睡眠時間は8時間より少ないが、朝ごはんはほぼ毎日食べている。</p> <p>D 睡眠時間は8時間より少なく、朝ごはんも食べないときが多い。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、取組体制や家庭との連携の在り方を再検討する。</p>	
業間の体育的活動を充実させる。	業間の体育的活動を充実させる。	業間の体育的活動を充実させる。	<p>(目標指標)</p> <p>A+Bの合計が60%以上</p>	<p>あなたの家庭では、</p> <p>A 「早寝・早起き・朝ごはん」は、ほとんどできています。</p> <p>B 「早寝・早起き・朝ごはん」は、だいたいできています。</p> <p>C 「早寝・早起き・朝ごはん」は、あまりできていません。</p> <p>D 「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいません。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、家庭への啓発活動を強化する。</p>	保護者
			<p>(取組指標)</p> <p>チャレンジ（業間の体育的活動）の時間の充実に努めている。</p>	<p>チャレンジの時間は、</p> <p>A 年間を通して、児童と時間いっぱい一緒に活動している。</p> <p>B おおむね児童と一緒に時間いっぱい活動している。</p> <p>C 開始時刻に遅れ、あまり児童と一緒に活動していない。</p> <p>D ほとんど参加せず、児童任せである。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制等を再検討する。</p>	

健やかな体

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
健康・安全教育の充実を図る。	健康・安全教育の充実を図る。	業間の体育的・身体的活動(業間の体育的取組)を充実する。	児童は、チャレンジ(業間の体育的取組)の馬拉ソンに熱心に取組み、力がついている。(成果指標)	私は、チャレンジの馬拉ソンでは、 A 家庭を9周(中学年8周、低学年7周)以上走っている。 B 家庭を7周(中学年6周、低学年5週)以上走っている。 C 家庭を5周(中学年4週、低学年3週)以上走っている。 D 歩いたり、しゃべりながら走ることが多い。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制や方法を再検討する。	児童
		(目標指標) A+Bの合計が70%以上	児童は、チャレンジ(業間の体育的取組)の時間を楽しみにしている。(満足度指標)	私は、チャレンジの時間が A とても楽しみで、めあてをもって取り組んでいる。 B 楽しみで、頑張って取り組んでいる。 C あまり楽しくない。 D ないほうがよい。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制や方法を再検討する。	児童
		【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	防犯訓練の実施など、安全教育に取り組んでいる。(取組指標)	児童を危険から守るための指導や訓練を、 A 年に10日以上実施している。 B 年に8回以上実施している。 C 年に6回以上実施している。 D 全校で実施する防犯訓練や安全教室だけで済ませた。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制や方法を再検討する。	教職員
		【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	児童の危機管理意識の向上に努める。	私は、 A 集団登下校では交通ルールをしっかりとして、身に着けている。 B 集団登下校では交通ルールを守り、防犯ブザーをちゃんと身に付けている。 C 集団登下校では、ときどき列から離れたたり、歩道からはみ出たりしている。防犯ブザーも身に着けていないときがある。 D 集団登下校では、ふざけていることが多く、防犯ブザーもあまり身に付けていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制や方法を再検討する。	児童
健康・安全教育の充実を図る。	健康・安全教育の充実を図る。	業間の体育的・身体的活動(業間の体育的取組)を充実する。	児童は、児童が危険から身を守るための方法を指導している。(満足度指標)	学校は、 A 子どもの安全に関して、十分に指導している。 B 子どもの安全に関して、大抵のことは指導している。 C 子どもの安全に関して、あまり指導していない。 D 子どもの安全に関して、全く指導していない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法や家庭への連絡等を再検討する。	保護者
(目標指標) A+Bの合計が70%以上						

健康・安全教育の充実を図る。

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
信頼される学校づくり	保護者や地域に信頼される学校づくりをめざす。	学期に1回、「学校一日公開」を実施する。	保護者や祖父母が自由に授業参観することができる。(取組指標)	「学校一日公開」に関して、 A 学級通信等を通して授業内容などを知らせ、積極的に参加を呼びかけている。 B 学級通信等を通して、参加を呼びかけている。 C 学級通信等でお知らせしている。 D 学校からの案内文書だけ配っている。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、実施方法や取組体制等を再検討する。	教職員
		参加する保護者や祖父母が増えている。(成果指標)	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	あなたの学級では「学校一日公開」に参加する保護者(祖父母)が、 A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 30%以上である。 D 30%未満である。	回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合は、授業内容の再検討や保護者への連絡を強化する。	教職員
信頼される学校づくり	学校だより等を通して学校の活動を保護者や地域の人に伝える。	学校だより等を通して学校の活動を保護者や地域の人に伝える。	【目標指数】 A+Bの合計が60%以上	「学校一日公開」は、 A 子どもが学校の様子がよくわかるので、もっと回数を増やしてほしい。 B 子どもが学校の様子がよくわかるので、これからも続けてほしい。 C 土日開催してほしい。 D 担任と懇談する時間を設けてほしい。	<複数回答> 回答者のA～Dに回答の割合を参考にしながら、「学校一日公開」の実施の在り方について検討する。	保護者
		各種たよりの充実を図っている。(取組指標)	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	学校だよりや各たよりを A 見やすい紙面づくりに心がけ、教職員の思いや児童の意見、感想などがよくわかるように工夫している。 B 教職員の思いや児童の意見、感想などがわかるように工夫している。 C 児童の意見や感想などがよくわかるように工夫している。 D 活動の様子や行事のお知らせだけにしていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組方法等を再検討する。	教職員

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
信頼される学校づくり	保護者や地域に信頼される学校づくりをめざす。	学校だより等を通して学校の活動を保護者や地域の人に伝える。	保護者は、各たよりを読んでい る。(成果指標)	あなたは、学校からの各たよりを A 必ず読んで、子どもと話し合っている。 B 必ず読んでい C あまり読んでいない。 D ほとんど読んでいない。	回答者のAまたはBと判断した割合 が70%未満の場合は、内容や配付 方法等を再検討する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	学年・学級だよりは、 A 教師の考えや子どもの様子がよくわかり、満 足している。 B 子どもの様子がわかり、おおむね満足してい る。 C 内容が十分とはいえず、あまり満足していな い。 D 内容が不十分で、まったく満足していない。	回答者のAまたはBと判断した割合 が70%未満の場合は、内容の再検 討をする。	
信頼される学校づくり		ゲストティーチャーやポ ランティアなど地域の人 材を学校教育に活用す る。	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	あなたの学級では、諸活動において A 積極的にゲストティーチャーやボランティア をお願いし、活動内容の充実に努めている。 B 特に校外学習等において、ゲストティーチャ ーやボランティアをお願いしている。 C ゲストティーチャーやボランティアはあまり お願いしていない。 D ゲストティーチャーやボランティアは全くお 願いしていない。	回答者のAまたはBと判断した割合 が60%未満の場合は、取組方法や 募集方法等を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上	あなたの学級では、ゲストティーチャーやポラン ティアを活用することで、 A 児童の興味・関心が高まり、学習内容の深ま りや広がりが見られる。 B 児童の興味・関心が高まり、意欲的な学習態 度が見られる。 C 学習に対する関心度が高まっている。 D 児童の学習に効果が見られるということはな い。	回答者のAまたはBと判断した割合 が60%未満の場合は、学習内容や 実施方法等を再検討する。	
信頼される学校づくり		児童は、ゲストティーチャーやボ ランティアの方と積極的に交流し ている。(満足度指標)	【目標指数】 A+Bの合計が60%以上	私は、ゲストティーチャーやボランティアの方に A 積極的に話かけている。 B ととき話かけている。 C あまり話かけていない。 D ほとんど話かけていない。	回答者のAまたはBと判断した割合 が60%未満の場合は、学習内容や 実施方法等を再検討する。	児童
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上			

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
健康な体	業間のマラソンや外遊びを奨励し、体力の向上を図る。	<p>天気の良い日は、元気に外で遊ばせる。</p>	<p>外遊びを奨励する。(取組指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p> <p>進んで外遊びをする。(成果指標)</p>	<p>晴れた日には、外遊びに出るように A 毎日声かけをした。 B よく声かけをした。 C あまり声かけをしなかった。 D ほとんど声かけをしなかった。</p> <p>天気の良い日は、 A 毎日外で遊んだ。 B よく外で遊んだ。 C あまり外で遊ばなかった。 D ほとんど外で遊ばなかった。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、実施方法を再検討する。</p>	<p>教職員</p> <p>児童</p>
		<p>主体的にマラソンに取り組ませる。</p>	<p>A+Bの合計が70%以上</p> <p>子どもは外遊びを楽しんでいる。(満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>子どもは、放課後や休みに日に週に2回以上遊んでいる。 B 週に1回程度遊んでいる。 C 月に1回程度遊んでいる。 D 全く遊んでいない。</p> <p>マラソンで学年の走破目標(高:50km, 中:40km, 低:30km)を達成させる。(取組指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>マラソン大会で春より秋に記録の級がレベルアップする。(成果指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>子どもはマラソン(体力づくり)に意欲的に取り組んでいる。(満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>学年の走破目標を達成させるため、 A 週2回以上意識付けを行った。 B 週1回意識付けを行った。 C たまに意識付けを行った。 D 意識付けを行わなかった。</p> <p>わたしは、マラソン大会で春より秋に記録の級が A 2級以上レベルアップした。 B 1級レベルアップした。 C 同じ級であった。 D 級が下がった。</p> <p>子どもは、放課後や休みの日にマラソン(体力づくり・スポ少含む)に週に2回以上取り組んでいた。 B 週に1回程度取り組んでいた。 C 月に1回程度取り組んでいた。 D 全く取り組んでいない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組割合等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、実施方法を再検討する。</p>	<p>教職員</p> <p>児童</p> <p>保護者</p>

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
健康な体	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	「早寝・早起き」を奨励する。	「早寝・早起き」を奨励する取り組みを実施する。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が75%以上 学年の目標就寝時刻(低:8時半,中:9時,高:9時半)までにねる。(成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 朝,一人で起きることができ(満足度指標)	「早寝・早起き」を奨励する具体的な取組を十分に行った。 A だいたい行った。 B あまりできなかつた。 C 全くできなかつた。 D わたしは,目標時刻までに毎日寝ることができた。 A 週に3回以上寝ることができた。 B 週に1回以上寝ることができた。 C 全く寝ることができなかつた。 D 子どもは, A 声をかけなくても,毎日一人で起きることができた。 B 週に3回以上,声をかけなくても一人で起きることができた。 C 週に1回以上,声をかけなくても一人で起きることができた。 D いつも,声をかけて起こさないと起きない。	回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には,取組体制等を再検討する。	教職員
		自転車乗車時のヘルメット着用を推進する。(3年以上)	子どもたちに,安全のためヘルメット着用を指導する。(3年以上)(取組指標) 【目標指数】 Aの合計が90%以上 自転車に乗るとき,ヘルメットを着用する。(成果指標) 【目標指数】 Aの合計が90%以上 3年以上の児童は自転車に乗るときにヘルメットを着用している。(満足度指標) 【目標指数】 Aの合計が90%以上	ヘルメット着用を,機会あるごとに,必ず指導した。 B 機会あるごとに,ほぼ指導した。 C 機会あるごとに,時々指導した。 D 指導しなかつた。 自転車に乗るときには, A 必ずヘルメットを着用した。 B ほぼヘルメットを着用した。 C 時々ヘルメットを着用した。 D 全くヘルメットを着用しなかつた。 3年以上の子どもは,自転車に乗るときに必ずヘルメットを着用していた。 A ほぼヘルメットを着用していた。 B 時々ヘルメットを着用していた。 C 全くヘルメットを着用しなかつた。	回答者のAと判断した割合が90%未満の場合には,実施方法等を再検討する。	教職員
					回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には,家庭との連携方法を再検討する。	児童
					回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には,家庭との連携方法を再検討する。	保護者
					回答者のAと判断した割合が90%未満の場合には,実施方法等を再検討する。	教職員
					回答者のAと判断した割合が90%未満の場合には,取組体制等を再検討する。	児童
					回答者のAと判断した割合が90%未満の場合には,家庭との連携方法を再検討する。	3年以上の保護者

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
確かな学力	主体的な学び、好奇心を刺激する授業作りにより学習内容の定着を図る。	漢字・計算の力をつけさせる。	漢字や計算の反復練習により、定着を図る。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上 漢字や計算テストで正答率が高まる。(成果指標)	授業の中で、漢字や計算の反復練習をA 必ず行った。 B ほぼ行った。 C 時々行った。 D できなかった。 わたしは、漢字や計算テストでA いつも90点以上とれた。 B いつも80点以上とれた。 C いつも70点以上とれた。 D 70点以上とれなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、実施方法および内容等を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員 児童
		全教員が研究授業を行い、指導法を改善する。	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 子どもに漢字・計算の力がつく。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 各部で公開授業や研究会を実施する。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上 授業は理解できる。(成果指標)	漢字・計算の力が、A よく付いてきた。 B どちらから一方は、よく付いてきた。 C がんばっているが、力があまり付かなかった。 D 取り組みが不十分で、力が付かなかった。 各部会で、公開授業および研究会を、A 5回以上実施できた。 B 4回以上実施できた。 C 3回以上実施できた。 D 3回以下しか実施できなかった。 授業の内容が、A よく分かった。 B だいたい分かった。 C あまり分からなかった。 D 分からなかった。 子どもは、授業の内容をA よく分かると言っている。 B だいたい分かると言っている。 C あまり分らないと言っている。 D 分らないと言っている。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、取組体制等を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制等を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員 児童 保護者

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
確かな学力	進んで読書に親しむ習慣の形成を図る。	読書を奨励する。	朝読書の時間の充実を図る。(取組目標)	朝読書の時間に、 A 毎回、欠かさずことなく指導・監督を行った。 B 2回に1回程度、指導・監督を行った。 C 3回に1回程度、指導監督を行った。 D ほとんど指導・監督をしなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、取組体制等を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上 自分から進んで目標冊数(低:60, 中:40, 高:20)を読破する。(成果指標)	A 本を読めた。 わたしたちは、各学年の目標冊数(低:60, 中:40, 高:20)の A 本を読めた。 B 8割(低:48さつ, 中:32冊, 高:16冊)の本を読めた。 C 6割(低:36さつ, 中:24冊, 高:12冊)の本を読めた。 D 6割(低:36さつ, 中:24冊, 高:12冊)の本は読めなかった。 我が家では、 A 親子で読書の対話があり、読書を楽しむことができた。 B 本を読む姿がよく見られるようになった。 C 以前より若干であるが、読書量が増えた。 D 今までと変わらなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・内容等を再検討する。	
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 子どもは読書に親しんでいる。(満足度指標)		回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・家庭との連携方法等を再検討する。	保護者



学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
思いやりの心	温かい居心地のよい学級づくりをめざす。	「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子をめざす。	ソーシャルスキルトレーニングを授業の中に取り入れる。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 子どもに、「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉かけを意識して行う。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える。(成果指標)	わたしは、学級でソーシャルスキルトレーニングをA月に1回以上実施できた。 B 必要に応じて実施できた。 C 1回は実施できた。 D 実施できなかった。 わたしは、子どもに「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉かけをA 毎日、意識して言うことができた。 B 3日に1回程度、意識して言うことができた。 C 1週間に1回程度、意識して言うことができた。 D 意識して言うことができなかった。 わたしは、「ありがとう」「ごめんなさい」をA 素直に言うことができた。 B だいたい、素直に言うことができた。 C あまり、素直に言うことができなかった。 D 素直に言うことができなかった。 子どもは、「ありがとう」「ごめんなさい」を、A 素直に言えている。 B だいたい素直に言えている。 C あまり素直に言えていない。 D 素直に言えていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法および内容等を再検討する。	教職員
	道徳教育の充実や福祉活動を一層推進する。	いろいろな人とのふれあい(交流)活動をする。	いろいろな人とのふれあい活動を計画的に実施する。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 道徳の授業を計画的に行う。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	わたしは、ふれあい活動をA 計画を基に、より工夫して実施することができた。 B 計画的に実施することができた。 C 実施することはできなかった。 D 実施できなかった。 わたしは、道徳の授業をA 毎週実施した。 B 予定授業時数は確保できた。 C 標準授業時数を確保できなかった。 D 標準授業時数の9割以下しか確保できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、取組内容・体制等を再検討する。	教職員
					回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、取組体制および家庭との連携方法等を再検討する。	教職員 保護者 児童
					回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、取組体制および家庭との連携方法等を再検討する。	教職員 保護者
					回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、取組内容・体制等を再検討する。	教職員
					回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、取組内容・体制等を再検討する。	教職員

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
道徳教育の充実や福祉活動を一層推進する。		いろいろな人とのふれあいや(交流)活動をする。	いろいろな人とのふれあいや活動を楽しめている。 (成果指標)  【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	わたしは、いろいろな人とのふれあいや活動がA とても楽しかった。 B 楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D 楽しくなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、取組体制等を再検討する。	児童
		「あいさつ運動」に取り組む。	いろいろな人とのふれあいや活動を通して、子どもに思いやりの心が育っている。(満足度指標)  【目標指数】 A+Bの合計が75%以上	A よく育っている。 B だいたい育っている。 C あまり育っていない。 D 育っていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、取組方法・内容等を再検討する。	保護者
思いやりの心		「あいさつ運動」に取り組む。	子どもや家庭へ「あいさつ運動」の意識付けを図る。(取組指標)  【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	わたし(学校)は、A 十分意識付けをすることができた。 B 概ね意識付けをすることができた。 C あまり意識付けをすることができなかった。 D 意識付けをすることができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、取組体制・家庭との連携方法等を再検討する。	教職員
			自分を振り返りながら、「あいさつ運動」に取り組める。(成果指標)  【目標指数】 A+Bの合計が75%以上	わたしは、「あいさつ運動」にA よく取り組んだ。 B だいたい取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D 取り組まなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、取組体制・方法等を再検討する。	児童
			自分を振り返ることにより、子どもに思いやりの心が育っている。(満足度指標)  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	あいさつ運動の取り組みにより、子どもに思いやりの心が、A よく育っている。 B だいたい育っている。 C あまり育っていない。 D 育っていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
実践力（生きる力）	奉仕活動に意欲的に取り組める子を育成する。	清掃週間を設ける。	清掃の指導・監督を徹底する。（取組指標） 【目標指数】 A+Bの合計が85%以上 協力して時間いっぱい掃除をすることができる。（成果指標）	わたしは、清掃の指導・監督を、 A 毎日欠かすことなく行った。 B 2日に1回程度行った。 C 週1回程度行った。 D ほとんどしなかった。 わたしは、協力して時間いっぱい掃除をすることが、 A よくできた。 B だいたいできた。 C あまりできなかつた。 D できなかつた。	回答者のAまたはBと判断した割合が85%未満の場合には、実施方法・体制等を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 掃除のチェックカードでピカピカポイント賞をもらえる。（満足度指標）	わたしは、掃除のピカピカポイント賞を A 毎月、もらえた。 B 2ヶ月に1回、もらえた。 C 1回、らえた。 D もらえなかつた。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、家庭との連携方法等を再検討する。	児童
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 子どもの清潔な環境作り（勉強部屋）への自主性が育っている。（満足度指標）	自分の勉強する所（子ども部屋）の整理整頓・清掃が、 A いつも、行き届いていた。 B ほぼ、行き届いていた。 C あまり、行き届いていなかった。 D 行き届いていなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組体制等を再検討する。	保護者
		「家族の一員としての仕事」を奨励する。	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 「心のノート」や授業を活用し意欲付けした後、お手伝いカードで実践化を図る。（取組指標）	「心のノート」等で意欲付けをし、お手伝いカードで実践化を A よく図った。 B だいたい図った。 C あまり図れなかつた。 D 図れなかつた。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、実施方法・体制等を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 家庭で子どもに「家族の一員としての仕事」を与える。（取組指標）	我が家では、「家族の一員としての仕事（手伝い）」を A 毎日複数させている。 B 毎日させている。 C 必要に応じてさせている。 D 特にならなかつた。	回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、家庭への連絡等を教化する。	保護者

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
自主的・継続的な学習等を通して、粘り強く最良の子を育成する。	「家族の一員としての仕事」を奨励する。	家庭を助け、家族の一員としての役割を果たす。(成果指標)	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 子どもが家庭を助け、家族の一員として、自分の役割を果たすことができる。(満足度指標)	A 自分から進んで仕事を探し、毎日手伝うことができた。 B 自分の役割を持ち、毎日手伝うことができた。 C 時々、手伝うことができた。 D 家庭で手伝うことができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・内容等を再検討する。	児童
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 授業の進度にあった適切な内容及び適量の課題を出せた。	A 自分から進んで仕事を探し、毎日手伝うことができていた。 B 自分の役割を持ち、毎日手伝うことができていた。 C 時々、手伝うことができていた。 D 家庭で手伝うことができていなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、家庭への連絡を強化し、連携方法等を再検討する。	保護者
実践力（生きる力）	家庭学習の習慣を身に付けさせる。	A+Bの合計が90%以上 宿題を忘れずに提出することができる。(成果指標)	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 子どもが家庭で、意欲的に学習に取り組むことができる。(成果指標)	A 計画通りに出せた。 B だいたい計画通りに出せなかった。 C あまり計画通りに出せなかった。 D まったく出せなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合には、実施方法を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 宿題がなくても自分で学習する内容をみつけて学習をすることができる。(満足度指標)	A 毎日忘れずに出すことができた。 B 月に1回くらい忘れられることがあった。 C 週に1回くらい忘れられることがあった。 D 忘れることが多かった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、取組方法を再検討する。	児童
実践力（生きる力）	家庭学習の習慣を身に付けさせる。	A+Bの合計が80%以上 子どもが家庭で、意欲的に学習に取り組むことができる。(成果指標)	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 宿題がなくても自分で学習する内容をみつけて学習をすることができる。(満足度指標)	A 言われなくても、学習（宿題）に取り組んでいた。 B ほぼ言われなくても、学習（宿題）に取り組んでいた。 C 言われるまで学習（宿題）に取り組まない。 D 家庭学習をしない日が多かった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・内容等を再検討する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 子どもが家庭で、意欲的に学習に取り組むことができる。(成果指標)	A ほぼ毎日、家庭学習をすることができた。 B 週2回以上、家庭学習をすることができた。 C あまり、家庭学習をできなかった。 D ほとんど、家庭学習をできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・内容等を再検討する。	児童



学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
信頼される学校	開かれた学校作りに取り組む。	定期的に、学校公開をする。	(取組指標) 月に1回、学校公開をする。 【目標指数】 A+Bの合計が85%以上	我が校では、(学校行事を含み) A 月に1回、学校公開することができた。 B おおむね月1回、学校公開をすることができた。 C 十分にできなかった。 D ほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が85%未満の場合には、実施方法を再検討する。	教職員
	学校教育評価を工夫研究し、その実施と結果の公表により活性化を図る。	おたより、HPを通して情報発信を行う。	(成果指標) 学校公開に多くの保護者が参加することができる。 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 (満足度指標) 学校での子ども様子のを知ることができる。 【目標指数】 A+Bの合計が75%以上	わたしは、学校公開(行事を含む)を A ほとんど参観した。 B 約半数は参観した。 C 時々参観した。 D ほとんど参観しなかった。 学校公開を参観して、学校での子ども様子がよく分かった。 A よく分かった。 B だいたい分かった。 C あまり分からなかった。 D ほとんどわからなかった。 学年日より・保健日より・給食日より・ホームページなどを通して、情報を A 迅速・正確に発信することができた。 B おおむね迅速・正確に発信することができた。 C あまり迅速・正確に発信することができなかった。 D 迅速・正確に発信することができなかった。 ホームページを通して、学年の取り組みを A 月に2回以上、情報発信ができた。 B 月に1回以上、情報発信ができた。 C 学期に2回以上、情報発信ができた。 D 十分に発信することができなかった。 学年・学校・保健・給食日よりやHPなどを通して知りたい情報を、 A よく得ることができた。 B 知りたい得ることができた。 C あまり得ることができなかった。 D 得ることができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法等を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、取組方法等を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法等を再検討する。	保護者

学校評価総合シート事例

〇〇市立〇〇小学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
信頼される学校	学校教育評価を工夫研究し、その実施と結果の公表により活性化を図る。	地域・学校協議会を活用する。	(取組指標) 地域・学校協議会の活用を図っている。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	地域・学校協議会を A 有効に活用し、学校の活性化を図ることができた。 B 有効に活用し、意見や要望を取り上げることができた。 C あまり活用できなかった。 D 活用できなかった。	回答者のまたはBと判断した割合が80%未満の場合には、取組方法・体制等を検討する。	教職員 (管理職)
			(取組指標) 学校評価委員会の活用を図っている。 【目標指数】 A+Bの合計が75%以上	学校評価委員会を A 有効に活用し、学校の活性化を図ることができた。 B 有効に活用し、意見や要望を吸い上げることができた。 C 開催することができた。 D 十分に活用できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が75%未満の場合には、取組体制等を再検討する。	教職員
			(成果指標) 評価の結果から具体的な改善策を実践する。 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	地域・学校協議会や学校評価委員会からの A 具体的な改善策がすべて実践された。 B 具体的な改善策がほぼ実践された。 C 具体的な改善策がいくつか実践された。 D 具体的な改善策を実践できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・体制等を再検討する。	教職員
			(満足度指標) 評価結果や改善策に対する意見や要望を学校の活性化に結びつける。 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	評価結果や改善策に対する意見や要望が学校の活性化に結びついていた。 A よくあてはまる。 B ややあてはまる。 C あまりあてはまらない。 D あてはまらない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合には、取組方法・内容・体制等を再検討する。	教職員

学校評価総合シート事例

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
学習指導	確かな学力の定着	①学習ノートを活用し、家庭学習の習慣を支援する	学習ノートの提出状況と内容の点検を実施する。(取組目標) 【目標指数】 A+Bが80%以上 学習ノートを期日に提出する。(成果指標)	学習ノートを A ほぼ毎回点検している B 2回に1回ほど点検した C 3回に1回ほど点検した D 点検していない 私は、学習ノートを A ほぼ毎日提出した B 2回に1回ほど提出した C 3回に1回ほど提出した D ほとんど出さなかった あなたのお子様は、家庭学習に取り組む際に A ほぼ毎日学習ノートを活用した B 4日以上は学習ノートを活用した C あまり学習ノートを活用しなかった D ほとんど学習ノートを活用しなかった 定期テスト前に A 基礎・基本が身につくようドリルを工夫している B 時々ドリルを実施している C 計画的にドリルを実施していない D ドリルを一度も実施していない 私は、ドリルコンテストで A しっかり基礎・基本が身についた B かなり基礎・基本が身についた C 少し基礎・基本が身についた D 基礎基本が身につかなかった あなたは、お子様のドリルコンテストへの A 取組みに満足しており効果的だと思う B 取組みは概ね満足しており学習の定着につながると思う C 取組みにあまり満足しておらず定着にあまりつながらないと思う D 取組みは不十分であり、効果がなと思う E わからない	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、実施方法を再検討する 回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、実施方法を再検討する AまたはBと判断した場合が70%未満の場合は、家庭との連携強化につながる方策を検討する。	教職員
		②基礎・基本の徹底を図るためにドリルコンテストのあり方を工夫する	生徒は、学習ノートを活用し家庭学習に取り組んでいる。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bが70%以上 計画的にドリルコンテストを実施する(取組目標) 【目標指数】 A+Bが80%以上 ドリルコンテストを通して基礎・基本が身についた(成果指標) 【目標指数】 A+Bが70%以上 ドリルコンテストの取り組みは基礎基本の定着に効果的である(満足度指標) 【目標指数】 A+Bが70%以上	回答者のAまたはBと判断した場合が80%未満の場合は、取組体制を再検討する 回答者のAまたはBと判断した場合が70%未満の場合は、取組体制を再検討する 回答者のAまたはBと判断した場合が70%未満の場合は、家庭との連携強化につながる方策を検討する	教職員	
						生徒
						保護者



学校評価総合シート事例

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
学習指導	主体的な学習の支援	③ 教材研究に 取り組み授業 改善に努める	主体的な学習を支援する教材 研究に取り組んでいる（取組 指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上	教材研究に A 取り組みの授業でも改善ができた B 取り組み概ね授業改善ができた C 取り組みが授業改善ができなかった D 教材研究ができなかった	回答者のAまたはB と判断した割合が8 0%未満の場合は、 実施方法等を再検討 する	教職員
			興味を持って授業に取り組んだ （成果指標） 【目標指数】 A+Bが70%以上	私は A どの授業にも興味をもって取り組んだ B 興味をもってほしい授業に取り組んだ C あまり興味をもって授業に取り組めなかった D 興味をもって授業に取り組めなかった	回答者のAまたはB と判断した割合が8 0%未満の場合は、 取り組み 体制を再検討する	生徒
学習指導	主体的な支援	④ 懇談会で学 習状況および 課題の把握に 努める	懇談会で個々の状況と課題を 分析し生徒や保護者に伝える （取組指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上	懇談会で A 生徒の個々の学習状況や課題をしつかりと伝えることができた B 生徒の個々の学習状況や課題をだいたい伝えることができた C 生徒の個々の学習状況や課題をあまり返り伝えることができなかった D 生徒の個々の学習状況や課題を全く伝えることができなかった	回答者のAまたはB と判断した割合が8 0%未満の場合は取 り組み方法等を再検 討する	教職員
			懇談会で学習状況や課題が理 解できた（成果指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上	私は、懇談会で A 自分の課題がわかり、次の目標がしっかりと持てた B 次の目標がかなり持てた C 次の目標が少し持てた D 次の目標が持てなかった	回答者のAまたはB の割合が80%未満 の場合は実施方法等 を再検討する	生徒
自主的な活動の工夫	自主的な活動の工夫	⑤ 自主的な活 動ができるよ うな場を工夫 する	懇談会で学習状況や課題が理 解できた（満足度指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上	懇談会では、お子様の A 学習の状況や課題がしっかりとわかった B 学習の状況や課題がかなりわかった C 学習の状況や課題が少ししかわからなかった D 学習の状況や課題がわからなかった	回答者のAまたはB と判断した割合が8 0%未満の場合は取 り組み方法等を再検 討する	保護者
			自主的な活動の場の設定を工 夫した（取組指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上	学校行事で A どの行事にも自主的な活動ができるよう場の設定の工夫をした B ほとんどの行事で自主的な活動の場の設定ができた C 自主的な活動の場の設定を少し工夫した D 自主的な活動の場の設定ができなかった	回答者のAまたはB と判断した割合が8 0%未満の場合は取 り組み方法等を再検 討する	教職員

学校評価総合シート事例

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
学習指導	自主的な活動の工夫	⑤自主的な活動ができるよう工夫する	自主的な活動ができた（成果指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上	私は、文化祭や体育祭などの行事で A 自主的な活動がしつかりできた B 自主的な活動がかなりできた C 自主的な活動が少しできた D 自主的に活動ができなかった あなたのお子様は、 A ほとんどの学校行事にすすんで活動していた B 半数の学校行事にすすんで活動していた C あまりすすんで活動していなかった D すすんで活動していなかった E わからない	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は取り組み体制等を再検討する	生徒
			学校行事などで自主的な活動が見られた（満足度指標） 【目標指数】 A+Bが80%以上		回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は取り組み方法を再検討する	保護者

学校評価総合シート事例

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
生徒指導	〇自ら律性し、個性にました望ましい人間づくりの推進	「いつでもできる森田の子」の自主目標の設定、取り組み、評価を支援する。	<p>教育活動全体で「いつでもできる森田の子」を提唱、啓蒙できた。（取組指標）</p> <p>【目標指数】A+Bの合計が80%以上</p> <p>向上しようとする目標を設定することができた。（成果指標）</p> <p>【目標指数】A+Bの合計が80%以上</p> <p>常に目標を意識し、習慣化することができた。（成果指標）</p> <p>【目標指数】A+Bの合計が70%以上</p> <p>生徒は「いつでもできる森田の子」の目標が習慣化することができた。（満足度指標）</p> <p>【目標指数】A+Bの合計が60%以上</p> <p>生徒は「いつでもできる森田の子」の目標が習慣化することができた。（満足度指標）</p> <p>【目標指数】A+Bの合計が60%以上</p> <p>生徒指導部だよりなどを発行し、読み聞かせなど啓蒙活動に努力できた。（取組指標）</p> <p>【目標指数】A+Bの合計が80%以上</p>	<p>「いつでもできる森田の子」の啓蒙活動において</p> <p>A 1人ひとりの目標を把握し、常に意識させる環境作りができた。</p> <p>B おおむね意識させる環境作りができた。</p> <p>C とくにおおむね意識させる環境作りができた。</p> <p>D 充実した環境作りができなかった。</p> <p>私は「いつでもできる森田の子」について</p> <p>A 自分の生活を見つめ直して具体的な目標をかかげることができた</p> <p>B 向上しようとする目標をかかげることができた</p> <p>C 自分に適した目標をかかげることができなかった</p> <p>D 目標をかかげなかった</p> <p>私は「いつでもできる森田の子」の目標を</p> <p>A 3項目以上が習慣化できた。</p> <p>B 2項目が習慣化できた。</p> <p>C 1項目が習慣化できた。</p> <p>D 習慣化できなかった。</p> <p>「いつでもできる森田の子」の啓蒙活動において、生徒に</p> <p>A 3項目以上を習慣化させることができた。</p> <p>B 2項目を習慣化させることができた。</p> <p>C 1項目を習慣化させることができた。</p> <p>D 習慣化させることができなかった。</p> <p>あなたのお子様は、「いつでもできる森田の子」の目標を</p> <p>A 3項目以上が習慣化できた。</p> <p>B 2項目が習慣化できた。</p> <p>C 1項目が習慣化できた。</p> <p>D 習慣化できなかった。</p> <p>E わからない</p> <p>「文鏡」（指導部便り）など、啓蒙活動のために</p> <p>A 発刊物を常に教室掲示し、日々話題にふれることができた。</p> <p>B 発刊物を常に教室掲示し、ときおり話題にふれることができた。</p> <p>C 発刊物を配布することに内容を読み聞かせることができた。</p> <p>D 努力できなかった。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合、取り組み体制等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合、取り組み体制等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合、取り組み体制等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合、家庭との連携強化につながる取り組み方法等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が60%未満の場合、家庭との連携強化につながる取り組み方法等を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合、取り組み体制等を再検討する。</p>	<p>教職員</p> <p>生徒</p> <p>生徒</p> <p>教職員</p> <p>保護者</p> <p>教職員</p>
			<p>〇自ら律性し、個性にました望ましい人間づくりの推進</p>	<p>「いつでもできる森田の子」の啓蒙活動において</p> <p>A 1人ひとりの目標を把握し、常に意識させる環境作りができた。</p> <p>B おおむね意識させる環境作りができた。</p> <p>C とくにおおむね意識させる環境作りができた。</p> <p>D 充実した環境作りができなかった。</p> <p>私は「いつでもできる森田の子」について</p> <p>A 自分の生活を見つめ直して具体的な目標をかかげることができた</p> <p>B 向上しようとする目標をかかげることができた</p> <p>C 自分に適した目標をかかげることができなかった</p> <p>D 目標をかかげなかった</p> <p>私は「いつでもできる森田の子」の目標を</p> <p>A 3項目以上が習慣化できた。</p> <p>B 2項目が習慣化できた。</p> <p>C 1項目が習慣化できた。</p> <p>D 習慣化できなかった。</p> <p>「いつでもできる森田の子」の啓蒙活動において、生徒に</p> <p>A 3項目以上を習慣化させることができた。</p> <p>B 2項目を習慣化させることができた。</p> <p>C 1項目を習慣化させることができた。</p> <p>D 習慣化させることができなかった。</p> <p>あなたのお子様は、「いつでもできる森田の子」の目標を</p> <p>A 3項目以上が習慣化できた。</p> <p>B 2項目が習慣化できた。</p> <p>C 1項目が習慣化できた。</p> <p>D 習慣化できなかった。</p> <p>E わからない</p> <p>「文鏡」（指導部便り）など、啓蒙活動のために</p> <p>A 発刊物を常に教室掲示し、日々話題にふれることができた。</p> <p>B 発刊物を常に教室掲示し、ときおり話題にふれることができた。</p> <p>C 発刊物を配布することに内容を読み聞かせることができた。</p> <p>D 努力できなかった。</p>		

学校評価総合シート事例

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
生徒指導	○自ら律性 し、個性に を大切にま しい人間 づくりの 推進	積極的な生徒 指導のあり方 を追究し、自 ら気づき、高 められる活動 の工夫をす る。	一筆啓上の取り組みなどか ら生徒の個性を見出し、温 かい言葉かけができた。 (取組指標) 【目標指数】A+Bの合計 が80%以上	「一筆啓上」の取り組みなどから A 常に生徒の良いところに視点を置き、ほめる言葉かけができた。 B 常に生徒の行動に視点を置き、言葉かけができた。 C 生徒の個性を見出せたが、言葉かけにならなかった。 D 生徒に適切な言葉かけができなかった。	回答者のAまたは Bと判断した割合 が80%未満の場 合は、取り組み体 制等を再検討す る。	教職員
			生徒指導部だよりなどを読 んで意識した行動ができ た。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計 が70%以上 一筆啓上の活動などを意欲 的に取り組むことができ た。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計 が70%以上 生徒指導部だよりや一筆啓 上の取り組みは、生徒の心 の成長に効果的である。 (満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計 が60%以上	私は、「丈鏡」(指導部便り)などの A 発刊物を必ず読み、常に自分の行動に生かした。 B 発刊物をときどき読み、自分の行動に生かした。 C 発刊物を読んだが、自分の行動に生かせなかった。 D 全く発刊物を読まなかった。 私は、「一筆啓上」の取り組みで A 3回とも思いを込めた手紙を書くことができた。 B 2回は思いを込めた手紙を書くことができた。 C 1回は思いを込めた手紙を書くことができた。 D 思いを込めた手紙を書くことができなかった。 あなたは、「丈鏡」(指導部便り)や「一筆啓上」の手紙などの取り組みに、 A たいへん満足しており、心の成長に効果的であると思う。 B おおむね満足しており、心の成長に効果的であると思う。 C あまり満足しておらず、心の成長に効果的でないと思う。 D 満足しておらず、心の成長に効果的がないと思う。 E わからない	回答者のAまたは Bと判断した割合 が70%未満の場 合は、取り組み方 法等を再検討す る。	生徒
			生徒指導部だよりや一筆啓 上の取り組みは、生徒の心 の成長に効果的である。 (満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計 が60%以上	あなたは、「丈鏡」(指導部便り)や「一筆啓上」の手紙などの取り組みに、 A たいへん満足しており、心の成長に効果的であると思う。 B おおむね満足しており、心の成長に効果的であると思う。 C あまり満足しておらず、心の成長に効果的でないと思う。 D 満足しておらず、心の成長に効果的がないと思う。 E わからない	回答者のAまたは Bと判断した割合 が60%未満の場 合は、家庭との連 携強化につながる 取り組み方法等 を再検討する。	保護者

学校評価総合シ

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断の観点	判定基準	回答者
進路指導	〇キャリア教育推進のための学校体制の整備	<p>自分の適性を理解し、進路選択するための進路相談のあり方を工夫する。</p>	<p>適性を考えさせるような工夫(検査、授業、通知票渡し、個別相談など)をしている。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 自分の適性について考えるようになった。(成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 適性について考えさせるような取組みに満足している。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>進路指導において A 適性を認識させるための工夫を3つ以上行えた B 適性を認識させるための工夫を2つは行えた C 適性を認識させるための工夫を1つは行えた D 工夫をする余裕はなかった 私は、自分の職業適性について A 自分の適性を3つ以上認識できるようになった B 自分の適性を2つは認識できるようになった C 自分の適性を1つは認識できるようになった D 自分の適性を1つも認識できない あなたのお子様は、家族との会話の中で自分の職業適性について A よく話をす B 時々話をす C たまに話をす D ほとんど話をしない キャリア教育において A 仕事に関する興味・関心を持たせるための工夫を3つ以上行えた B 仕事に関する興味・関心を持たせるための工夫を2つは行えた C 仕事に関する興味・関心を持たせるための工夫を1つは行えた D 時間の確保ができなかった 私は、進路学習で興味のある職業を A 3つ以上もつことができた B 2つはもつことができた C 1つはもつことができた D 1つももつことができていない あなたのお子様は、家族との会話の中で自分の将来のなりた職業について A よく話をす B 時々話をす C たまに話をす D ほとんど話をしない</p>	<p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合実施方法を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合取組体制を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が70%以下の場合家庭との連携強化を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合実施方法を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合取組体制を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が70%以下の場合家庭との連携強化を再検討する</p>	<p>教職員</p> <p>生徒</p> <p>保護者</p> <p>教職員</p> <p>生徒</p> <p>保護者</p>
		<p>職業についての学習指導体制を整備する。</p>	<p>職場見学・体験等の取組みを工夫している(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 将来の進路について、生徒の興味・関心が高まってきている。(成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 職業について興味・関心を持たせる取組みに満足している。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>職業についての学習指導体制を整備する。</p>	<p>職業に関する興味・関心を持たせるための工夫を3つ以上行えた 仕事に関する興味・関心を持たせるための工夫を2つは行えた 仕事に関する興味・関心を持たせるための工夫を1つは行えた 時間の確保ができなかった 私は、進路学習で興味のある職業を A 3つ以上もつことができた B 2つはもつことができた C 1つはもつことができた D 1つももつことができていない あなたのお子様は、家族との会話の中で自分の将来のなりた職業について A よく話をす B 時々話をす C たまに話をす D ほとんど話をしない</p>	<p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合実施方法を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合取組体制を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が70%以下の場合家庭との連携強化を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合実施方法を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合取組体制を再検討する</p> <p>回答者がAまたはBと判断した割合が70%以下の場合家庭との連携強化を再検討する</p>

学校評価総合シート事例

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断の観点	判定基準	回答者
進路指導	〇キャリア教育推進のための学校体制の整備	上級学校についての学習指導体制を整備する。	上級学校に興味・関心を持っている。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	進学指導において A 上級学校について考えさせる機会を3回以上行った B 上級学校について考えさせる機会を2回行った C 上級学校について考えさせる機会を1回は行った D 上級学校について考えさせる機会をもてなかった	回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合、実施方法等を再検討する	教職員
			上級学校について、生徒の興味・関心が高まっている。(成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	私は、興味のある高校について知っていることを A 3つ以上いうことができる B 2ついうことができる C 1ついうことができる D 1つもいうことができない	回答者がAまたはBと判断した割合が80%以下の場合、取組体制を再検討する	生徒
			上級学校についての興味・関心を持たせるための取組に満足している。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	あなたのお子様は、家族との会話の中で自分の行きたい高校について A よく話をする B 時々話をする C たまに話をする D ほとんど話をしない	回答者がAまたはBと判断した割合が70%以下の場合、家庭との連携強化を再検討する	保護者

学校評価総合シ

〇〇町立〇〇中学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
保護者・地域住民との連携	〇家庭・地域との有機的連携	①学年だけで、教育活動を発信し、保護者や地域の有識者の感想・意見も求めていき、教育活動にいかしていく。	何回発行できたか。(取組目標) 【目標指数】 A+Bの合計が100%	学年だよりを A 年8回以上発行できた。 B 年6回以上発行できた。 C 年4回以上発行できた。 D 発刊しなかった	AB合わせて100%に達しない場合改善策を検討する	教職員
		②職場体験学習や地域学習で外部の人材を活用する。	何か得るものがあったか。(成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が50%以上	私は学年だよりなどを読んで得るものが A とてもあったと思う B 少しあったと思う C どちらとも言えない D なかった あなたは、学年だよりなどを読んで何か得るものが A とても多くあった B 少しはあった C どちらとも言えない D なかった	A B合わせて50%に達しない場合改善策を検討する	生徒
保護者・地域住民との連携	〇家庭・地域との有機的連携	③保護者や地域住民が学校を訪問しやすくなる。	各学年外部の人材活用を行う。(取組目標) 【目標指数】 各学年1回以上	地域人材を A 年に3回以上活用できた。 B 年に2回活用できた。 C 年に1回活用できた。 D 活用できなかった	Dが1学年でもあったら改善策を検討する。	教職員
		④保護者や地域住民が学校を訪問しやすくなる。	地域人材から役立つものがあったか。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が60%以上	私は、学校でゲストティーチャー(外部講師)の授業を受けたとき A とても役に立ったと思う B 少し役に立ったと思う C どちらとも言えない D 役に立たなかった	A B合わせて60%に達しない場合改善策を検討する	生徒
			保護者などが学校を訪問する機会を増やせ、参加者も増やせたか。(取組目標) 【目標指数】 5回300人以上	学校参観の機会を A 年に5回以上の機会をつくり、のべ350人以上の参加者がいた。 B 5回以上300人以上 C 4回以上250人以上 D 3回以下200人以下	C・Dであれば改善策を検討する。	教職員

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
1 教育課程 学習指導 研修 中高一貫教育	中高一貫教育についての 校内での理解を深め、ま た、連携予定中学校との 交流を進めるとともに、 家庭や地域との連携にも 配慮する。	①職員間での中高一貫教 育についての理解を深め る。	中高一貫教育についての全体像の 理解度を把握する。 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 (取組指標)	中高一貫関係の全体像をどの程度把握してい ますか。 A：十分把握している。 B：だいたい把握できている。 C：よく把握できないところが複数ある。 D：ほとんど把握できていない。	AまたはBと判断した回 答者の割合が70%未満 の場合は、改善の方策等 を検討する。	教職員
		②連携クラスについて説 明会を連携予定の2中 学の保護者・生徒の双 方に対して実施する。	連携クラスについての説明会の状 況を把握する。 (取組指標)	2 中学での説明会で、中高連携クラスに対し て、わかりやすく、充実した説明ができてまし たか。 A：生徒・保護者の双方に、わかりやすく 充実した説明を行った。 B：保護者には充実した説明ができたが、 生徒には、わかりにくかった。 C：生徒にはわかりやすい説明ができたが、 保護者には、説明不十分だった。 D：生徒・保護者の双方に難しく、説明不 足であった。 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 (成果指標)	Aと判断した回答者の割 合が70%未満の場合に ついて再検討を行う。	AまたはBと判断した回 答者の割合が70%未満 の場合は、説明の方法に ついて再検討を行う。
			説明会の印象について把握する。 (満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	2 中学で開かれた中高連携クラスの説明会で は、どの程度まで内容を理解できましたか。 A. ほぼ100%理解できた。 B. 80%程度理解できた。 C. 50%程度しか理解できなかつた。 D. 50%未満しか理解できなかつた。	AまたはBと判断した回 答者の割合が70%未満 の場合は、説明の方法に ついて再検討を行う。	保護者



項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
1 教育課程 学習指導 研修 中高一貫教育	中高一貫教育についての 校内での理解を深め、ま た、連携予定中学校との 交流を進めるとともに、 家庭や地域との連携にも 配慮する。	①職員間での中高一貫教 育についての理解を深め る。	中高一貫教育についての全体像の 理解度を把握する。  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上  (取組指標)	中高一貫関係の全体像をどの程度把握してい ますか。 A：十分把握している。 B：だいたい把握できている。 C：よく把握できないところが複数ある。 D：ほとんど把握できていない。	AまたはBと判断した回 答者の割合が70%未満 の場合は、改善の方策等 を検討する。	教職員
		②連携クラスについて説 明会を連携予定の2中 学の保護者・生徒の双 方に対して実施する。	連携クラスについての説明会の状 況を把握する。  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上  (取組指標)	2中学での説明会で、中高連携クラスに対し て、わかりやすく、充実した説明ができたか。 A：生徒・保護者の双方に、わかりやすく 充実した説明を行った。 B：保護者には充実した説明ができたが、 生徒には、わかりにくかった。 C：生徒にはわかりやすい説明ができたが、 保護者には、説明不十分だった。 D：生徒・保護者の双方に難しく、説明不 足であった。	Aと判断した回答者の割 合が70%未満の場合 は、説明会の持ち方につ いて再検討を行う。	
			説明会の理解度について把握す る。  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上  (成果指標)	中学校で実施された中高連携クラスの説明会 では、どの程度まで内容を理解できましたか。 A：ほぼ100%理解できた。 B：80%程度理解できた。 C：50%程度しか理解できなかつた。 D：50%未満しか理解できなかつた。	AまたはBと判断した回 答者の割合が70%未満 の場合は、説明の方法に ついて再検討を行う。	生徒
			説明会の印象について把握する。 (満足度指標)  【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	2中学で開かれた中高連携クラスの説明会で は、どの程度まで内容を理解できましたか。 A：ほぼ100%理解できた。 B：80%程度理解できた。 C：50%程度しか理解できなかつた。 D：50%未満しか理解できなかつた。	AまたはBと判断した回 答者の割合が70%未満 の場合は、説明の方法に ついて再検討を行う。	保護者

学校評価総合シート事例

福井県立〇〇高等学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
2 生徒指導部	規範意識の高揚とマナーの向上を図る。	生活規範確立のため、時間励行をはかる。	1学年1日目の平均遅刻者数を3名以下にする。 (取組指標)	先生のクラスの1日目の平均遅刻者数は A：0～3名であった。 B：4～7名であった。 C：8～10名であった。 D：11名以上であった。 私は、遅刻の回数が A：学期に1回以下であった。 B：学期に2～3回であった。 C：学期に4～6回であった。 D：学期に6回以上であった。 子どもの生活基盤作りのために A：朝食をとらせ余裕を持って送り出した。 B：朝食をとらせ余裕がなかった。 C：時間に間に合ったが、朝食をとらせられないことがあった。 D：朝食をとらせられないことが多く、時間的にも余裕がなかった。	AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、改善の方策等を検討する。 AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、指導の方法について再検討を行う。 AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、改善の方策等を検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 遅刻は、学期に1回以下を目指す。 (成果指標)			
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 朝食をしっかりとりらせ、余裕を持って子どもを送り出す。 (取組指標)			生徒
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			保護者
			身なりの注意指導に取り組む。 (取組指標)	身なりの注意指導を A：見逃すことなく、積極的にに行った。 B：だいたい行った。 C：少ししか行わなかった。 D：まったく行わなかった。	AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、改善の方策等を検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 身なりについて、注意指導を受けないことを目指す。 (成果指標)	私は、身なりの注意指導を A：全く受けなかった。 B：月に4回程度受けた。 C：月に10回程度受けた。 D：ほぼ毎日受けた。 子供は、 A：いつもきちんとした身なりであった。 B：まあまあきちんとした身なりであった。 C：ときどき身なりが不十分であった。 D：いつも身なりが不十分であった。	AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、指導の方法について再検討を行う。	生徒
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 子供は、きちんとした身なりができています。 (満足度指標)			保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			保護者

学校評価総合シート事例

福井県立〇〇高等学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
3 進路指導	生徒一人ひとりの学力を向上させ、進路志望を達成させる。	<p>①小論文指導を充実させるとともに、ハイレベル特別講座を実施し、学力の向上と進路志望の実現を図る。</p> <p>②1・2年生が早期に進路志望を明確にするための企画を実施したり、進路情報の提供に努める。</p>	<p>小論文講座・ハイレベル特別講座などを実践的に実施し、生徒の学力向上につなげる。 (取組指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>小論文講座やハイレベル特別講座など学力向上の取組に関し、その内容や回数などが適切であった。 A：適切であった。 B：ほぼ適切であった。 C：やや不適切であった。 D：不適切であった。</p>	<p>AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は取組方法を再検討する。</p>	教職員
			<p>小論文講座やハイレベル特別講座に積極的に参加する。(3年) 小論文トレーニングに積極的に取り組み。(1, 2年) (成果指標)</p> <p>【目標指数】 B以上であること</p>	<p>小論文講座(トレーニング)やハイレベル特別講座は役に立っていますか。 A：役に立っている。 B：おおむね役に立っている。 C：あまり役立っていない。 D：役立っていない。</p>	<p>C、Dの場合は実施方法等を再検討する。</p>	生徒
			<p>生徒の学力向上のための取組みが十分に行われている。 (満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>〇〇高校の学力向上の取組みはA：十分に行われている。 B：おおむね行われている。 C：やや不十分である。 D：不十分である。</p>	<p>AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、取組み体制等を再検討する。</p>	生徒 保護者
			<p>生徒の志望を把握し、きめ細かく適切なガイダンスを行う。 (取組指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>進路や学習に関する個人面談の回数がA：年間4回以上である。 B：年間3回である。 C：年間2回である。 D：年間2回未満。</p>	<p>AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、取組み体制等を再検討する。</p>	教職員
			<p>生徒一人ひとりが自分の進路希望の実現に向けて意欲的に学習に取り組んでいる。 (成果指標)</p> <p>【目標指数】 B以上であること</p>	<p>私は明確な目標を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。 A：取り組んでいる。 B：おおむね取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。</p>	<p>C、Dの場合は指導法等を再検討する。</p>	生徒
			<p>十分な進路情報が提供され、進路を明確にするための取組みが行われている。 (満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>〇〇高校の進路に関する情報はA：十分に提供されている。 B：ほぼ提供されている。 C：やや不十分である。 D：不十分である。</p>	<p>AまたはBと判断した回答者の割合が70%未満の場合は、生徒や家庭への進路情報提供を強化する。</p>	生徒 保護者

学校評価総合シート事例

福井県立〇〇高等学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
4 保健管理	校舎内外の環境美化を促進する。	① 快適で安全な環境をつくるため、毎日の校内清掃に真剣に取り組む。	<p>清掃に積極的かつ能率的に取り組ませる。</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>真面目に清掃に取り組む態度を身につける。</p> <p>(成果指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>身辺の整理・整頓に留意する態度を身につける。</p> <p>(満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が50%以上</p>	<p>清掃区域の監督について</p> <p>A：毎日監督して真面目に取り組ませた。</p> <p>B：2日に一度は監督した。</p> <p>C：週に一度は監督した。</p> <p>D：ほとんど監督していない。</p> <p>私は清掃活動に</p> <p>A：毎日真面目に取り組んでいる。</p> <p>B：2日に一度は真面目に取り組んでいる。</p> <p>C：どちらかというと不真面目である。</p> <p>D：ほとんど取り組んでいない。</p> <p>お子さんは家庭内での整理・整頓を</p> <p>A：毎日している。</p> <p>B：1週間に一度はしている。</p> <p>C：1カ月に一度はしている。</p> <p>D：全くしていない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、方法を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、方法を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が50%以上の場合は良好とみなす。</p>	回答者 教職員
		② ゴミの分別をしっかりと行い、減量化に協力する。	<p>ゴミ分別の仕方を集会やSHなど機会あるごとに指導する。</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>ゴミの分別を適切に行う。</p> <p>(成果指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p> <p>ゴミの分別に留意する態度を身につける。</p> <p>(満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が50%以上</p>	<p>ゴミ箱の表示に従い生徒にゴミ分別を</p> <p>A：完全にさせることができている。</p> <p>B：大体させることができている。</p> <p>C：あまりさせることができていない。</p> <p>D：ほとんど分別させることができていない。</p> <p>私はゴミ分別を</p> <p>A：毎日できている。</p> <p>B：ほぼ毎日できている。</p> <p>C：あまりできていない。</p> <p>D：全くできていない。</p> <p>お子さんは家庭内でゴミの分別を</p> <p>A：毎日できている。</p> <p>B：ほぼ毎日できている。</p> <p>C：あまりできていない。</p> <p>D：全くできていない。</p>	<p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、方法を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、方法を再検討する。</p> <p>回答者のAまたはBと判断した割合が50%以上の場合は良好とみなす。</p>	回答者 生徒

学校評価総合シート事例

福井県立〇〇高等学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
5 図書整備	図書・資料の整備と充実を図り、利用しやすい図書室の環境作りに努める。	①図書・資料の整備・充実を図る。	希望図書・推薦図書の購入について相談や要求を受けやすくする。 (取組指標)	先生として希望図書・推薦図書の購入について、相談や要求は A：大変しやすい。 B：まあまあしやすい。 C：少しにくい。 D：全くできない。 あなたは希望図書についての相談や要求を、1年間に何回行いましたか。 A：5回以上行った。 B：3回以上行った。 C：1回以上行った。 D：全く行わなかった。	回答者のDと判断した割合が50%以上の場合は、改善策等を検討する。	教職員
			【目標指数】 A+B+Cの合計が50%以上			
			購入希望図書について相談や要求を受けやすくする。 (成果指標)		回答者のDと判断した割合が50%以上の場合は、改善策等を検討する。	生徒
			【目標指数】 A+B+Cの合計が50%以上			
			図書室・学級文庫の本の揃え方を充実させる。 (満足度指標)	あなたは図書室・学級文庫の本の揃え方に満足していますか。 A：満足している。 B：まあまあ満足している。 C：あまり満足していない。 D：不満足である。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策等を検討する。	生徒
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			
			図書室や学級文庫の利用において、生徒にルールやマナーを守るように指導する。 (取組指標)	指導を A：気を配り、こまめに指導している。 B：必要に応じて指導している。 C：もう少し指導が必要である。 D：指導が必要である。 E：副担任で指導する機会がなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策等を検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			
		②図書の貸し出し・返却のルール遵守と常識的なマナーについての自覚を促し、図書利用における環境整備に努める。	図書室や学級文庫の利用において、ルールやマナーを守る。 (成果指標)	あなたは図書室利用のルールやマナーを A：きちんと守った。 B：だいたい守った。 C：先生や図書委員に注意されて守った。 D：全く守らなかった。	回答者のDと判断した割合が50%以上の場合は、改善策等を検討する。	生徒
			【目標指数】 A+B+Cの合計が50%以上			
			図書室や学級文庫を利用しやすくする。 (満足度指標)	〇〇高校の図書室や学級文庫は利用しやすいですか。 A：利用しやすい。 B：おおむね利用しやすい。 C：かなり利用しにくい。 D：利用しにくい。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策等を再検討する。	生徒
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			

学校評価総合シート事例

福井県立〇〇高等学校 ①

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	
6 資格取得指導	商業科生徒の資格取得の向上に努める。	全関係の資格取得のために、土曜講座、長期休暇中の補習を充実する。さらに、上位級を取得者に対する支援を充実する。	十分な計画のもと生徒への指導を 実施し、個に合った適切な検定指導を行う。	商業科の土曜講座や補習の体制が充実しており、適切な検定指導が、 A：十分行われた。 B：まあまあ行っていた。 C：あまり行っていないかった。 D：全く行っていないかった。	回答者のAまたはBと判断した場合、指導演方法を強化する。	教職員	
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	あなたが目標とする資格が取得できなかったか、 A：取得できた。 B：おおむねできた。 C：あまりできなかった。 D：できなかった。	回答者のAまたはBと判断した場合、指導演方法を再検討する。		商業科 生徒
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	〇〇高校商業科が行っている資格取得に対する取り組みについて、 A：たいへん満足である。 B：満足している。 C：あまり満足していない。 D：不満足である。	回答者のAまたはBと判断した場合、家庭への連絡等を強化する。		

学校評価総合シート事例

福井県立〇〇高等学校 ①

項目 (校務分掌)	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数 (取組指標)	判断基準	判定基準	備考
7 開かれた学校づくり	開かれた学校作りを推進するために、PTAとの連携の強化に努める。	①PTA活動（総会・夏季研修会・秋季研修会）をより充実させ、活性化させる。	<p>保護者に対してPTA活動への参加を働きかける。</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 PTA活動の案内を保護者に渡す。 (成果指導)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 PTA活動の企画や内容に満足している。</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 「PTAだより」を読んでいる。 (成果指標)</p>	<p>PTA活動の案内の配布と生徒を通じて、保護者に対して参加への働きかけを</p> <p>A：常に行なった。 B：しばしば行なった。 C：あまり行わなかった。 D：ほとんど行わなかった。 E：担任ではないので、特に関わっていない。</p> <p>私は、PTA活動の案内を保護者に A：すべて渡した。 B：ほとんど渡した。 C：あまり渡さなかった。 D：ほとんど渡さなかった。</p> <p>金津高校のPTA活動の企画や内容は A：十分に満足できるものであった。 B：おおむね満足できるものであった。 C：あまり満足できなかつた。 D：ほとんど満足できなかつた。</p> <p>私は「PTAだより」を A：2回とも読んだ。 B：1回だけ読んだ。 C：あることは知っているが読んでいない。 D：あることすら知らない。</p>	<p>回答者(ただしEは除外)のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p> <p>回答者のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p> <p>回答者のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p> <p>回答者のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p>	教職員
		②保護者に学校の教育活動を積極的に広報する。	<p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 「PTAだより」が教育活動の内容や情報を得る一助となっている。 (満足度指標)</p> <p>【目標指数】 A+Bの合計が70%以上</p>	<p>「PTAだより」は教育活動の内容や情報を得る上で A：大いに役立った。 B：おおむね役立った。 C：あまり役立たなかつた。 D：ほとんど役立たなかつた。</p>	<p>回答者のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p> <p>回答者のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p> <p>回答者のAとBと判断した割合が70%未満の場合は、実施方法を再検討する。</p>	保護者

学校評価総合シート事例

福井県立○○○○学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
1 教育課程 学習指導 研修	個に応じた指導の充実をめざして、工夫、改善を図る。	個別の指導計画を作成し、達成目標を明確にして指導を進める。	子ども一人ひとりの実態に合った具体的な達成目標を設定する。 (取組指標)	私は、具体的な達成目標を設定することができた。 A 設定することができた。 B おおむね設定することができた。 C 十分に設定することができなかった。 D 全く設定することができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、個々の目標を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	私の、目標達成度は A 80%以上である。 B 60%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、個々の目標や目標を達成するための手段等を再検討する。	
2 生徒指導	児童生徒が安心して安全に過ごせる学校作りに努める。	登下校時における交通安全対策等の計画・運営の充実を図る。	通知表や連絡帳等から子どもの変化がわかる。 (満足度指標)	私は、子どもの変容が A よく分かった。 B おおむね分かった。 C あまり分からなかった。 D 全く分からなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、保護者に的確に伝わる表現等を工夫、改善する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	私は、安全指導を A ほぼ毎日行っている。 B 2週間～1ヶ月に1回程度行っている。 C 学期に1回程度行っている。 D 全く行っていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、目標を達成するための手だてを再検討し、安全指導を推進する。	
			スクーールバス乗車時及びJR通学時の安全指導を実施する。 (取組指標)	私は、登下校時、危険だと思うことが A 全くなかった。 B 数回あった。 C 頻繁にあった。 D 毎日あった。	回答にB、C、Dがあれば、危険箇所やその状態を把握し、改善のための検討を行う。	教職員 生徒
			安全に通学することができている。 (成果指標)	子どもは、登下校を A 安全に行うことができた。 B おおむね安全に行うことができた。 C 安全に行えない場合が多かった。 D 全く安全に行えなかった。	回答にC、Dがあれば、保護者と協力しながら、目標を達成するための手だてを工夫、改善する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上			



学校評価総合シート事例

福井県立○○○○学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
3 進路指導	児童生徒の、社会生活への円滑な移行を実現する。	個別の教育支援計画を活用し、本人(保護者)・学校・関係機関が、支援調整や情報交換を行う機会をもつ。	本人(保護者)に対し、進路ガイダンスや福祉サービスに関する情報提供を行う。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 個々の実態や生活環境等に応じて個別の教育支援計画を作成し、関係機関と連携をとる。(取組指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 間わりのある進路先や主たる支援者について、理解することができた。(成果指標)	私は、ガイダンスや情報提供を A 学期に2回以上行った。 B 学期に1回以上行った。 C 年間に1回以上行った。 D まったく行わなかった。 私は、計画に基づき、関係者との情報交換や相談を A 学期に1回以上行った。 B 半年に1回以上行った。 C 年間に1回以上行った。 D まったく行わなかった。 私は、進路先や主たる支援者と A 面識があり、各々の支援内容について理解している。 B 面識があり、各々の支援内容についておおむね理解している。 C 面識はあるが、各々の支援内容について、理解が不十分である。 D 直接的な関わりがなく、各々の支援内容について、理解が不十分である。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、教職員への進路情報等の提供の方法を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、支援計画の見直しを行うとともに、教職員に対し理解推進の取り組みを行う。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、進路の学習の内容や実施方法を再検討する。	教職員     教職員 生徒
4 保健管理	児童生徒が健やかに学校生活を送るための具体的な取り組みを図る。	児童生徒の健康状態を的確に把握する	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 ガイダンスや懇談等を通して、今後の生活について、具体的なイメージをもつことができた。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上 児童生徒の健康観察を実施する。(必要に応じて検温も行う) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 健康観察や電話連絡などにより、児童生徒の健康状態を把握することができた。(成果指標) 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上 連絡帳などにより、子どもの健康状態を把握することができた。(満足度指標) 【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	私は、健康観察を A 毎日実施できた。 B 週3, 4日実施できた。 C 週1, 2日実施できた。 D ほとんど実施できなかった。 私は、児童生徒の健康状態を A 90%以上把握できた。 B 70%以上把握できた。 C 50%以上把握できた。 D 把握できたのは50%未満だった。 私は、子どもの健康状態を A 毎日十分把握できた。 B 大体把握できた C 把握できない日が多かった。 D 全く把握できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、教職員への連絡情報等の提供の方法を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、健康観察の実施体制を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、健康観察の実施方法を再検討する。 回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、家庭との連携強化策を検討する。	保護者     教職員    教職員 保護者

学校評価総合シート事例

福井県立○○○○学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
5 安全管理	安心して学校生活を送ることのできる環境を整える。	早期に危険を発見し事件・事故の発生を未然に防ぐ。	校内点検を実施する。 (取組指標)	私は、施設・設備等の点検を A 1週間に1回実施できた。 B 1ヶ月に1回実施できた。 C 2ヶ月に1回実施できた。 D ほとんど実施できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、校内点検を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	危険箇所を見つけて対応する。 (成果指標)	私は、危険箇所を見つけたら A すぐにその場へ行き対応できた。 B その日のうちに対応することができた。 C 少し日がたってから対応することができた。 D 対応することができなかった。	
6 教員研修	総合養護学校として、個々の児童、養護段階に応じた支援を行える教員の養成を図る。	教職員に対する校内研修の実施と校外研修・研究会への参加の推進。	児童生徒たちは安全に学校生活を送っているか。 (満足度指標)	子供たちは、学校で A 安全に過ごしている。 B 安全に過ごしているように思う。 C 安全に過ごしているかどうかわからない。 D 安全に過ごしているように思えない。	回答者のAと判断した割合が70%未満の場合は、対応について再検討する。	保護者
			【目標指数】 Aが70%以上	校内研修(発達検査講習会・伝達講習会・人権同和研修会・講演会等)や校外研修会へ積極的に参加する。 (満足度指標)	私は、校内研修・校外研修への参加率 A 校内研修会に80%以上参加し、校外研修も受けた。 B 校内研修会に50～80%参加し、校外研修も受けた。 C 校内研修会に50～80%参加し、校外研修を受けない。 D 校内研修会への参加は50%未満だった。	
6 教員研修	総合養護学校として、個々の児童、養護段階に応じた支援を行える教員の養成を図る。	教職員に対する校内研修の実施と校外研修・研究会への参加の推進。	それぞれの研修で受けた内容等を生かす。 (成果指標)	私は、子供への支援に A 研修内容を基に、工夫し、授業に生かすことができた。 B 研修内容をそのまま利用し、活用できた。 C 授業に取り入れたが不十分だった。 D できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取り組み体制を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	教師から専門的な支援やアドバイスを受けている。 (満足度指標)	私は、教師から専門的な支援やアドバイスを A 十分受けている。 B おおむね受けている。 C ほとんど受けなかった。 D 全く受けなかった。	

学校評価総合シート事例

福井県立○○○○学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
7 教育相談	地域におけるセンタ一の役割の充実を図る。	生涯を通して気がかりな子どもとそれに関わる人たちの支援助を行う。	気がかりな子どもとそれに関わる人たちの支援助を行うことを理解する。 (取組指標)	私は、支援助の A 場所とその件数、具体的な支援助内容がある程度知っている。 B 場所とその件数程度は知っている。 C 場所程度なら知っている。 D ほとんど分からない。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	私は、情報を聞く機会が A 年に5回以上あった。 B 年に3回以上あった。 C 年に1回以上あった。 D 機会がなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制などを再検討する。	
8 情報管理	幼児児童生徒が生き生きと生活する様子を地域に発信することによって連携の輪を広げる。	校内LANおよびよりよいホームページづくりのための工夫をする。	養護学校教職員が校外の気がかりな子どもへの支援助に携わっていることを知る。 (満足度指標)	私は、支援助のために校外に出かけることを A 聞いたことがあり、必要だと思う。 B 聞いたことがあり、仕方がないと思う。 C 聞いたことがあるが、なぜ必要なのか分からない。 D 聞いたことがない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	私は、校内LANの使用満足度は A 100%～75% B 75%～50% C 50%～25% D 25%～0%	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	
8 情報管理	幼児児童生徒が生き生きと生活する様子を地域に発信することによって連携の輪を広げる。	校内LANおよびよりよいホームページづくりのための工夫をする。	快適な校内LANの環境を整える。 (取組指標)	私のホームページの内容の満足度は A 100%～75% B 75%～50% C 50%～25% D 25%～0%	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	私のホームページの内容の満足度は A 100%～75% B 75%～50% C 50%～25% D 25%～0%	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策を検討する。	

学校評価総合シート事例

福井県立○○○○学校 ②

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
9 寄宿舎	集団生活や余暇指導を通して心豊かな生活をめざす。	各行事を計画・立案し、一人ひとりの課題に応じた指導ができるよう工夫する。	一人ひとりに応じた内容及び課題を計画的に提供する。(取組指標)	私は、余暇時間の充実のために A 計画通りに課題を提供できた。 B おおむね計画通りに課題を提供できなかった。 C あまり計画通りに課題を提供できなかった。 D まったく課題を提供できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、課題等を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上を目指す。	子ども達が興味を持って取り組む。(成果指標)	子どもは、各行事に A 終始興味を持って参加していた。 B 全体の7割に興味を持って参加していた。 C 全体の3割に興味を持って参加していた。 D いやがって参加しなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、内容及び実施方法を再検討する。
10 全体研究	幼児児童生徒一人ひとりの将来像を見据えたつながりのある支援をめざす。	将を超えた連携を密にし、支援・指導について相互理解を深める。	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上を目指す。	私は、子ども達に寄宿舎生活をさせて A とても良かった。 B やや良かった。 C わからない。 D 良くなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上を目指す。	子ども達は寄宿舎生活を楽しくしている。(満足度指標)	私の研究会への参加率は A ほぼすべてに参加した。 B 60～80%参加した。 C 50～60%参加した。 D 50%未満だった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、実施方法を再検討する。
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上を目指す。	私の研究会への参加率は A 十分深まった。 B おおむね深まった。 C あまり深まらなかった。 D 深まらなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、内容及び実施方法を再検討する。	教職員
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上を目指す。	小低と小高、中と高での合同研究会を通して、互いの学部への理解を深める。(成果指標)	私の研究会への参加率は A 十分深まった。 B おおむね深まった。 C あまり深まらなかった。 D 深まらなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、内容及び実施方法を再検討する。
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上を目指す。	子ども達の生活習慣を確立し、余暇時間を充実させる。(成果指標)	子どもの指導が A 十分引き継がれ、指導に生かされている。 B 引き継がれている。 C あまり引き継がれていない。 D 全く引き継がれていない。	保護者
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上を目指す。	家庭や前担任からの情報が、子どもの実態把握や指導に生かされている。(満足度指標)	子どもの指導が A 十分引き継がれ、指導に生かされている。 B 引き継がれている。 C あまり引き継がれていない。 D 全く引き継がれていない。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、学部門の連携強化につながる方策や指導等を再検討する。

## 平成18年度 学校評価モデル校一覧

### 小学校（14校）

福井市森田小学校  
大野市上庄小学校

敦賀市立栗野小学校  
勝山市立野向小学校

小浜市立西津小学校  
鯖江市鳥羽小学校

あわら市金津東小学校  
永平寺町松岡小学校  
高浜町立青郷小学校

越前市北日野小学校  
池田町池田第一小学校  
若狭町立鳥羽小学校

坂井市立明章小学校  
美浜町美浜南小学校

### 中学校（7校）

福井市森田中学校  
越前市万葉中学校  
おおい町立名田庄中学校

敦賀市立気比中学校  
坂井市立坂井中学校

大野市尚徳中学校  
南越前町立今庄中学校

### 県立学校（10校）

足羽高等学校  
大野高等学校  
敦賀工業高等学校  
嶺南東養護学校

福井農林高等学校  
鯖江高等学校  
若狭高等学校

金津高等学校  
武生商業高等学校  
福井養護学校

この参考資料は、県教育庁義務教育課および高校教育課から閲覧およびダウンロードすることができます。

記載されている学校経営方針や学校評価総合シート等は、あくまでも「例」です。これらの資料を参考に、各学校が、創意工夫を生かして、自校の教育目標に基づいた適切な学校経営方針や学校評価総合シート等を作成し、学校評価システムの確立に取り組んでください。

県教育庁義務教育課ホームページ <http://info.pref.fukui.jp/gimu/>

県教育庁高校教育課ホームページ <http://info.pref.fukui.jp/koukou/>

